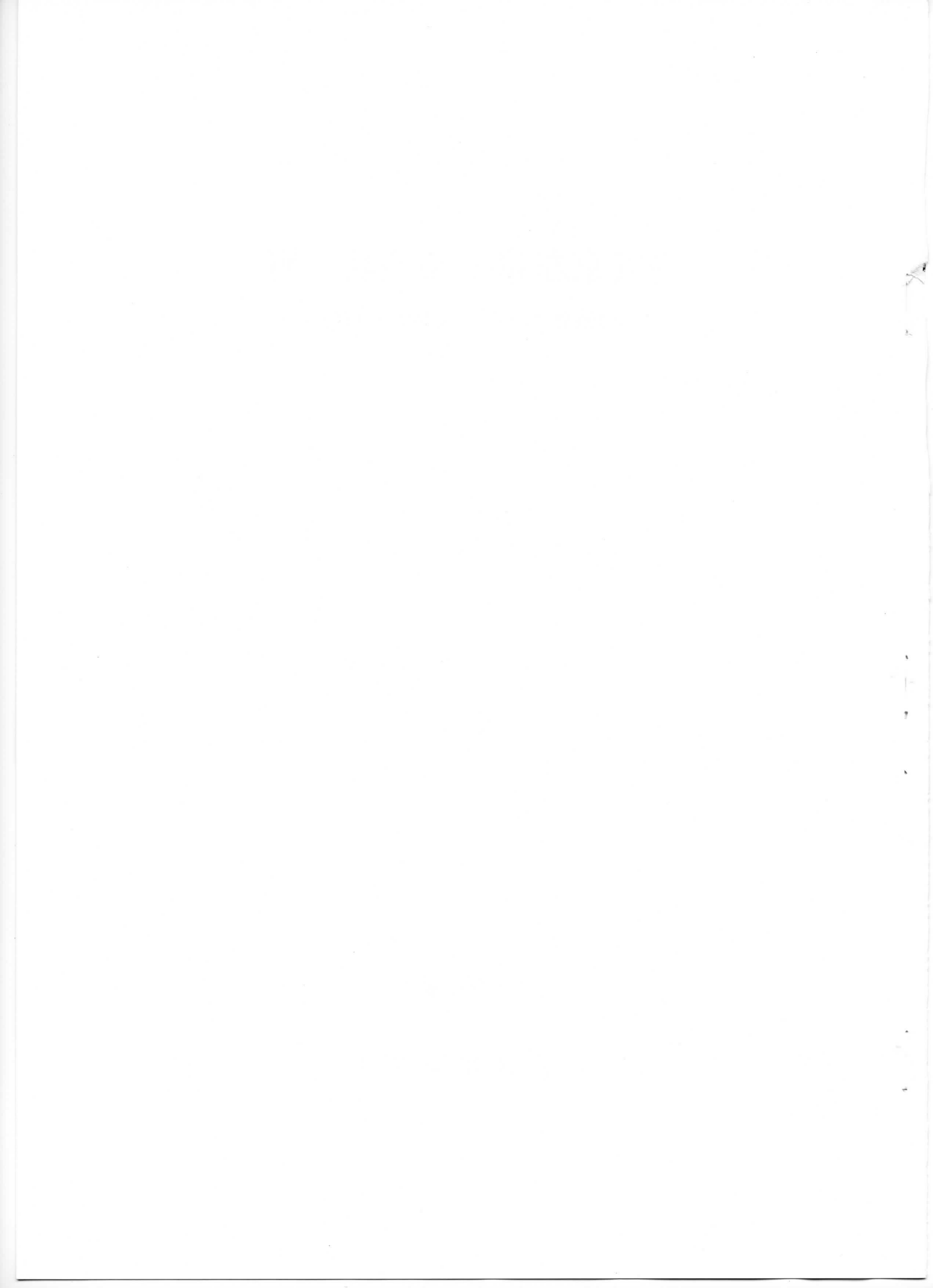


# 平安京左京五条四坊一町

—四条高倉マンション新築に伴う調査—

2006年

古代文化調査会



## 例 言

1. 本書は、古代文化調査会が京都市下京区東洞院通四条下る元悪王子町42において、株式会社ノバックによる四条高倉マンション新築に伴い実施した平安京左京五条四坊一町跡の発掘調査概要報告書である。
2. 発掘調査は、株式会社ノバックより委託を受けた古代文化調査会の家崎孝治が担当した。
3. 調査にあたっては、京都市埋蔵文化財調査センターの指導を受けた。
4. 本書の編集は家崎がおこなった。
5. 報告書作成においては、上村憲章の協力を得た。図面及び遺物整理は、上垣雅子、須貝淑恵、山口由希子が分担し、遺物の実測は上垣、須貝が担当した。
6. 本書の執筆分担は次の通りである。  
I・II・III・V 家崎 IV 上村
7. 本書で使用した方位及び座標の数値は日本測地系（改正前）平面直角座標系VIによる。記載した数値はm単位で、水準はT.P.である。
8. 本書で使用した地図は、京都市都市計画局発行の2500分の1の地図（三条大橋・壬生）を調整し、使用した。
9. 土壌及び土器・瓦類の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。
10. 遺物番号は実測図・拓本・写真ともに共通している。
11. 発掘調査においては、下記の方々の御指導・御協力を得ることができた。記して感謝の意を表します。（所属・敬称略、五十音順）

石田志朗 馬瀬智光 梶川敏夫 川端一成 北崎仁志 北田栄造 佐々木信夫

長谷川行孝 堀 大輔 宮原健吾

(株) 明輝建設 (株) 大高建設 (財) 京都市埋蔵文化財研究所

(有) 京都編集工房 (株) ノバック スタイルプラン (株)

# 本文目次

平安京左京五条四坊一町

I	調査の経緯	1
II	調査の経過	1
III	遺構	3
IV	遺物	8
V	小結	14

# 図版目次

図版 1	遺跡	A区第1～3面遺構実測図
図版 2	遺跡	A区北壁、東壁断面実測図
図版 3	遺跡	1 A区第1面全景（北東から） 2 A区第1面全景東部（北東から）
図版 4	遺跡	1 A区第2面全景（北東から） 2 A区第3面全景（北東から）
図版 5	遺跡	1 調査地遠景（北東から） 2 A区北壁（南東から） 3 A区第2面西部（北東から） 4 A区第2面東部（北東から） 5 A区第3面西部（北東から） 6 A区第3面東部（北東から） 7 A区北壁A地点出土土器片（南から） 8 A区北壁B地点出土土器片（南から）
図版 6	遺跡	1 A区土壙163（南から） 2 A区柱穴345（東から）

- 3 A区井戸52 (北から)
- 4 A区井戸274 (北西から)
- 5 A区井戸57・58 (南東から)
- 6 A区井戸57 (南東から)
- 7 A区井戸57 (南東から)
- 8 A区井戸57部分 (南から)
- 図版7 遺跡
  - 1 A区井戸58 (南東から)
  - 2 A区井戸58完掘状況 (西から)
  - 3 A区土壙80 (南から)
  - 4 A区北壁水琴窟 (南から)
  - 5 B区全景 (南東から)
  - 6 B区北壁 (南から)
  - 7 B区溝508 (南東から)
  - 8 B区落ち込み507 (南から)
- 図版8 遺物 溝173・土壙163・土壙261・柱穴345出土遺物
- 図版9 遺物 井戸52出土遺物
- 図版10 遺物 土壙128・柱穴407下層・土壙395・土壙165第3層出土遺物

## 挿 図 目 次

図1	調査地位置図	1
図2	平安京条坊と調査地位置図	2
図3	四行八門と調査位置関係図	2
図4	B区遺構図・北壁断面図	3
図5	土壙163実測図	4
図6	柱穴345実測図	4
図7	井戸52実測図	5
図8	井戸274実測図	5
図9	井戸57・58実測図	6
図10	土壙128・150実測図	7
図11	土壙133・147実測図	7
図12	土壙151実測図	7
図13	土壙80実測図	8

図14	北壁71層 A 地点他出土遺物実測図	8
図15	溝173他出土遺物実測図	9
図16	井戸52第 2 層出土遺物実測図	10
図17	井戸57他出土遺物実測図	11
図18	井戸58出土甗実測図	13
図19	柱穴407・他出土軒瓦拓影・出土甗実測図	13

## 表 目 次

表 1	遺物観察表	16
-----	-------	----

# 平安京左京五条四坊一町

## I 調査の経緯

調査地は、京都市下京区東洞院通四条下る元悪王子町42他である。当該地は周知の遺跡・平安京跡の左京五条四坊一町にあたる。2004年の秋、当地に株式会社ノバックによるマンション建設の計画がなされた。工事に先立ち、京都市埋蔵文化財調査センターが2004年9月15日に試掘調査をおこなった。調査の結果、地表下1.2mにおいて、平安時代から室町時代にかけての遺跡が良好な状態で遺存していることが判明し、発掘調査の必要性が考慮されるに至った。センターの指導の下、施主である株式会社ノバックと三者協議をおこなった結果、2005年1月より当調査会が発掘調査をおこなうこととなった。

## II 調査の経過

調査地の平安京左京五条四坊一町は、北側が四条大路に、西側が東洞院大路に面し、東側が高倉小路、南側が綾小路に囲まれたところである。また当地は、弥生時代から古墳時代の集落跡である烏丸綾小路遺跡に含まれるところでもある。

文献史料では、この一町には平安時代に太皇太后藤原順子の御所である東五条第が置かれ<sup>註1</sup>（文徳実録）、のちに関白藤原忠平が伝領した（貞信公記）とされている。藤原忠平はこの後、

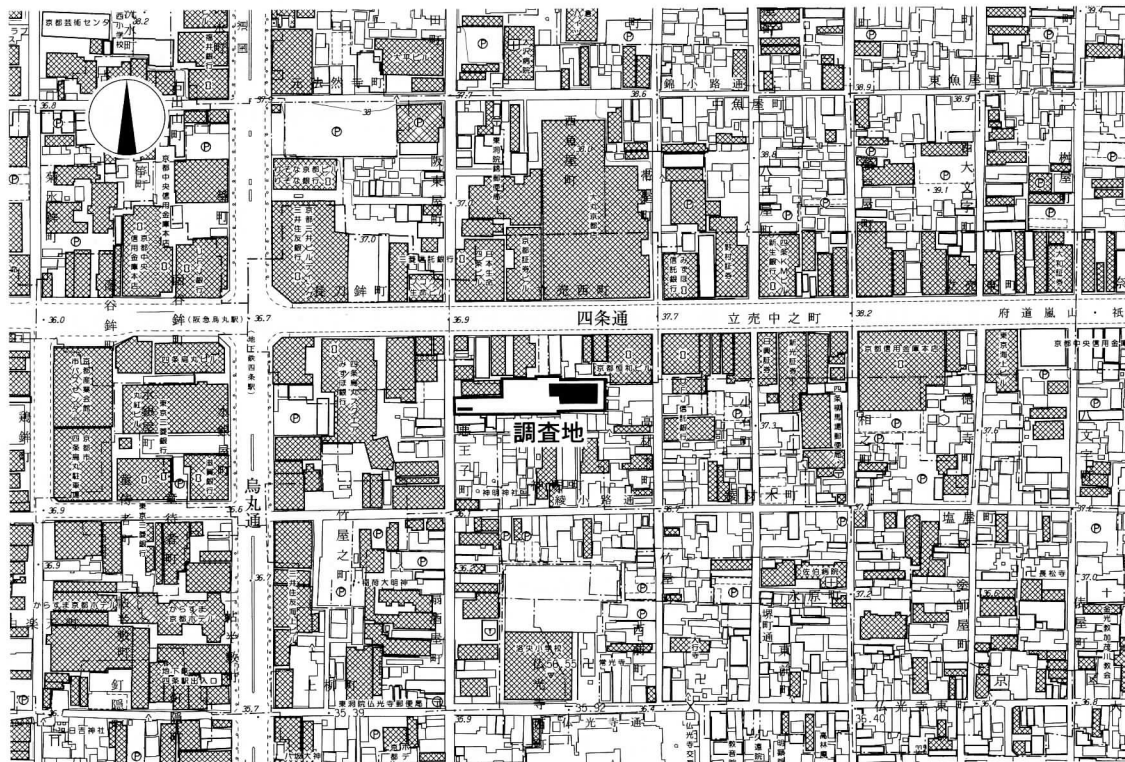


図1 調査地位置図 (1/5000)

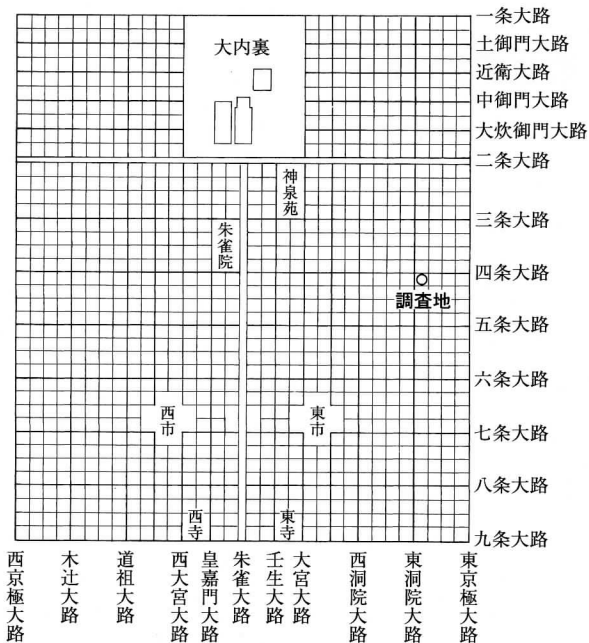


図2 平安京条坊と調査地位置図

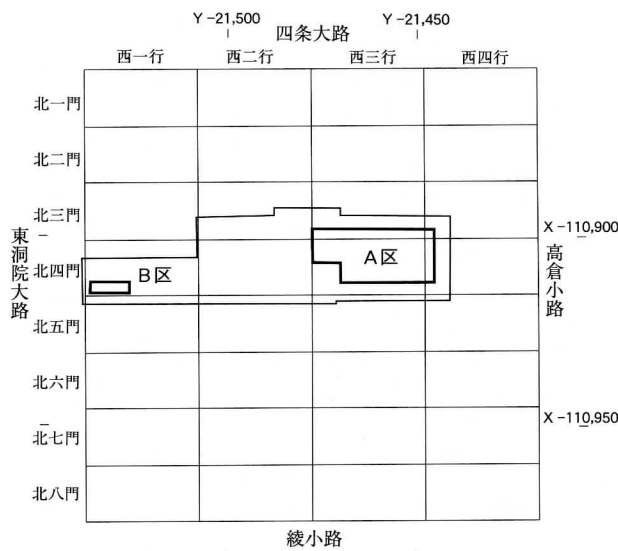


図3 四行八門と調査位置関係図 (1/2000)

妹の穩子が醍醐天皇のもとに入内するにあたって、東五条第を穩子に提供し、自らはその西側に西五条第を建て、東五条第は中宮穩子の御所となっている（貞信公記）。

平安時代後期には、徳大寺家の祖であり、鳥羽天皇の中宮待賢門院彰子の実兄でもある藤原実能の綾小路東洞院第が存在した可能性がある。また、清和天皇の斎院であった官子内親王の御所が置かれた（本朝世紀）。

鎌倉時代には、藤原有家の邸宅や源時房の母の邸宅、源孝行の邸宅があった（明月記）。

室町時代には、祇園祭の神事所が四條東洞院に設けられたり、(祇園執行日記)、応仁の乱以前「はねつるべ山」を出す町であった（祇園社記）。

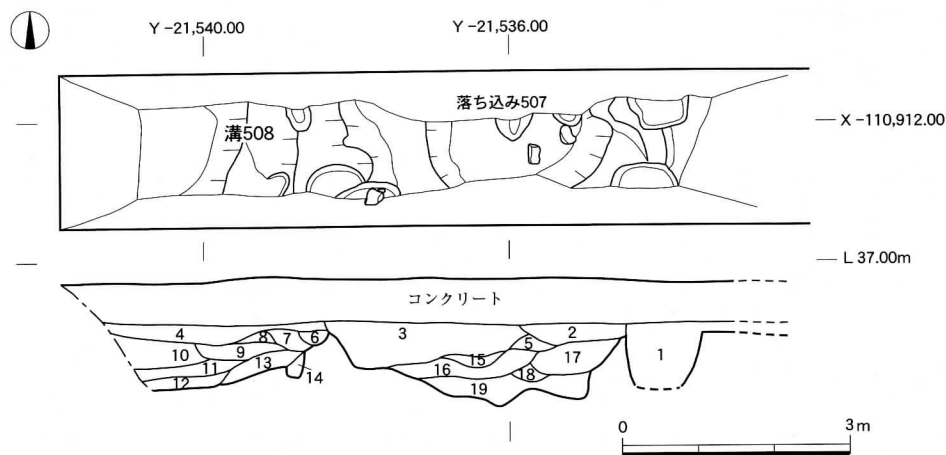
安土・桃山時代には、悪王子社がこの町にあり、現在の町名の由来ともなっている。また、大国主を祀る大国主社もこの町にあったとされる。

江戸時代には、加藤和泉守の屋敷（京都御役所向大概覚書）、松平安芸守の屋敷（京都洛中洛外絵図）、近江水口藩の加藤内蔵介の屋敷（京羽二重）があった。

調査にあたっては、試掘調査の結果を踏まえて東西2ヶ所の調査区を設定し、東部をA区、西部をB区とした。実際の調査においては、江戸時代の土層を機械力によって除去したのち、以下の調査を開始した。発掘調査は、A区が2005年1月31日から2005年4月22日まで、B区が2005年4月18日から2005年4月26日まで調査を行った。調査面積はA区B区合わせて450㎡である。調査日数は延べ60日となった。

なお、調査の方法については、(財)京都市埋蔵文化財研究所の平面直角座標系VIによる、平安京の復原モデル60を使用し、調査区の北東角を原点（X - 110,892、Y - 21,444）とする、





- 1 10YR3/2黒褐色砂泥 (漆喰土壌、瓦、石含む)
- 2 10YR4/2灰黄褐色砂泥 (土師片、炭、小礫混)
- 3 焼土層
- 4 10YR3/2黒褐色砂泥 (土師片、炭、径13cm以下の礫含む)
- 5 10YR3/3暗褐色砂泥 [炭混]
- 6 2.5Y3/2黒褐色砂泥 (土師片、炭混)
- 7 10YR4/2灰黄褐色砂泥 (土師片、炭、小礫混)
- 8 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 (土師片、炭、径6cm以下の礫含む)
- 9 10YR3/3暗褐色砂泥 (土師片、炭、小礫混)
- 10 10YR3/4暗褐色砂泥 (土師片、径9cm以下の礫含む)
- 11 2.5Y3/2黒褐色砂泥 (土師片、炭、小礫混)
- 12 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 (土師片、炭、径7cm以下の礫含む)
- 13 10YR4/4褐色砂泥 (泥土混)
- 14 10YR4/2灰黄褐色砂泥
- 15 2.5Y3/1黒褐色砂泥 (炭、径10cm大の礫含む)
- 16 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥 (土師片、小礫混)
- 17 10YR4/2灰黄褐色砂泥 (炭、小礫混)
- 18 10YR4/2~4/3灰黄褐色~にぶい黄褐色泥砂 (砂っぽい、土師片含む)
- 19 2.5Y3/2黒褐色砂泥 (土師片、炭混)

図4 B区遺構図・北壁断面図 (1/100)

南北方向にアルファベットを、東西方向にローマ数字を記号として付し、4mグリッドを基本とする遺構遺物の記録をとる方法をおこなった。

### III 遺 構

基本層序は、A・B両区ともに地表下1.2~1.4mまで現代の盛土及び江戸時代の土層が堆積し、以下中世の土層が0.1~0.3mの厚さで残存する。平安時代の遺構が成立する黄褐色砂泥以下の砂礫層 (調査地全域、並びに断ち割りによって確認できた第71層まで) には弥生時代後期から古墳時代前期の土器類を包含する。北壁で検出した第61層は地表下1mで成立しており、この砂礫層からは古墳時代前期の土器が出土していることを考慮すると、当該地が鴨川の扇状地の微高地形成部であることを示している。

検出した遺構は、平安時代から近代のものがある。遺構面は3面あり、遺構の総数は509基であった。それらの内、大半が平安時代末期から室町時代のものである。遺構としては、掘立柱、井戸、土壇、溝跡などがあり、遺物はコンテナ箱に74箱程ある。以下、主要な遺構についてその概略を述べる。

平安時代から鎌倉時代

掘立柱、土壙、溝跡などがある。

溝173 (図版1・4の1・5の4)

A区南東辺部に位置する東西方向の溝である。幅1m前後、深さ0.1mを測る。東西長7m以上の規模をもち、東端部は土壙150によって破壊されておりおそらく調査区外東部に続くものと考えられる。この溝は西三行北四門の南辺部より西四行四門に横断する。

土壙163 (図5・図版1・4の1・5の3・6の1)

A区中央部北壁に位置し、掘形の北半部が調査区外となり全形を知り得ない。東西長1.6m、南北長0.8m以上、深さ0.3mを測る。埋土は4層程に分層でき、掘形内より多量の土器類が出土した。土師器皿の中には完存品が多く含まれる。宴会や儀式に使用した後に投棄されたものと考えられる。

土壙165 (図版1・4の1・5の4)

A区東端部に位置する。径2.6~3mの円形に近い掘形をもつ。掘形中央部に径1.8~2m程の円形の痕跡が認められる。桶板等の痕跡は確認できなかったが、垂直に近い掘形の状況より判断して、桶のようなものを据えたものであろう。なお、堀底は検出面より1m程の深さを測る。

土壙261 (図版1・4の1・5の3)

A区西部に位置する。東西長1.1m、南北長1.8mの長方形の掘形をもち、深さ0.4mを測る。井戸57と切り合い関係にある。完形品を含む土師器皿などが出土している。

柱穴345 (図6・図版1・4の2・6の2)

A区中央部に位置する。径0.4m前後、深さ0.3mを測る。掘形内には、完形品の土師器皿が数枚重ねて据えた状態で出土した。最上位の土師器皿は伏せた状態を呈する。地鎮などに伴う埋納遺構の可能性が考えられる。

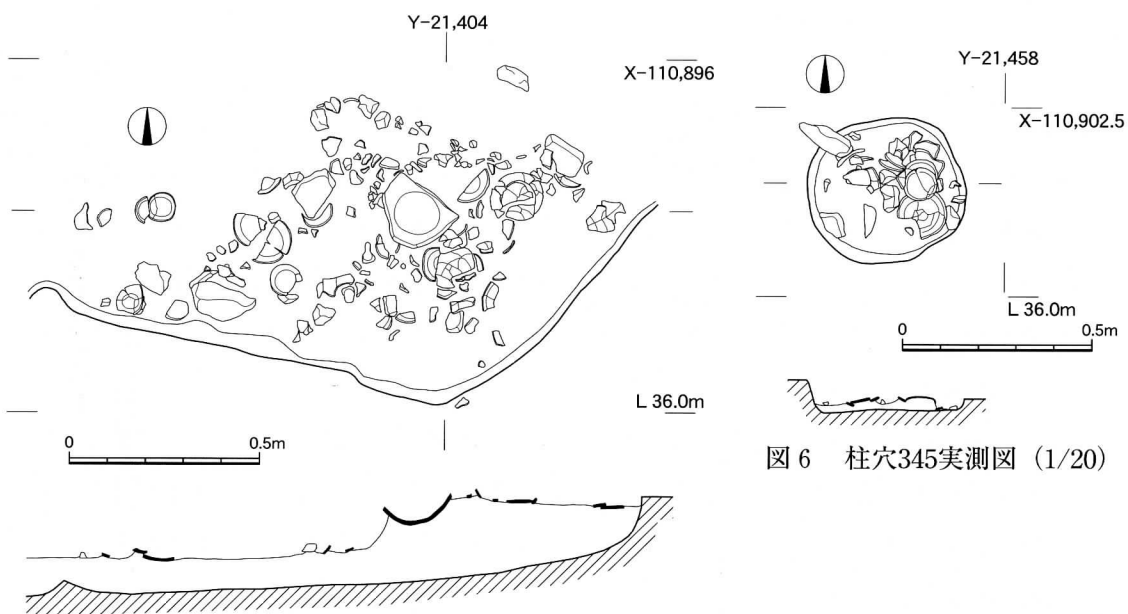


図5 土壙163実測図 (1/20)

図6 柱穴345実測図 (1/20)

室町時代

掘立柱、土塋、井戸、溝跡などがある。

井戸52 (図7・図版1・4の1・5の3・6の3)

A区中央南部に位置する。元は石組の井戸とみられるが、すべて抜き取られた状況を呈する。掘形は南北長3.1m、東西長2.6mの隅丸方形の形状を呈する。井戸の内径は1.2m~1.5mあり、底には一辺0.9m、高さ0.2mの方形の木枠を据える。深さは2.4mを測る。井戸内埋土は大きく4層程に分層できるが、第2層は炭層が間層として混入し、多量の土器類を包含する。掘形埋土は3層程に分層できるが、出土遺物はいずれも小片である。

井戸274 (図8・図版1・4の1・5の3・6の4)

A区西部に位置する。石組井戸である。0.2~0.3mの川原石を円形に組む。掘形は径2.4mの円形を呈する。石組の内径は1.2m前後を測り、井戸底に深さ0.25mの円形の曲物を据える。井戸58と切り合い関係にある。

井戸57・58 (図9・図版1・3の1・6の5~8・7の1と2)

A区西部に位置し、井戸274の西側に接する。いずれも縦板組井戸である。井戸58は、幅0.3

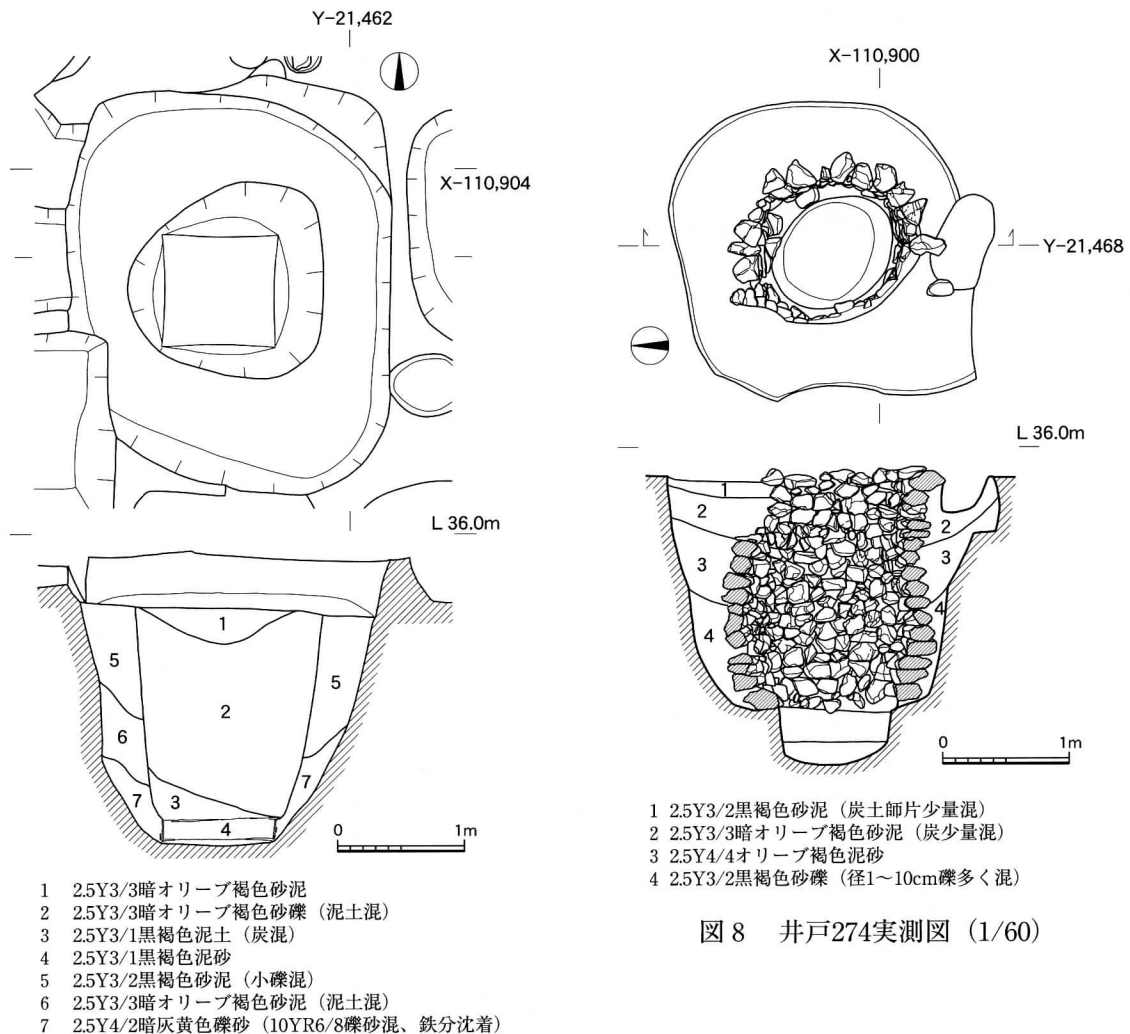


図8 井戸274実測図 (1/60)

図7 井戸52実測図 (1/60)

m、長さ2.2m以上の縦板を井戸底まで10角形に組む。内径1mを測る。井戸底には川原石を一段組んだ痕跡がうかがえ0.15~0.25mの川原石が5個体残存する。掘形は楕円形を呈し、長径2.5m、短径2.0m程の規模をもつ。掘形の南西部が井戸57によって切られている。井戸57は、井戸58と同じく縦板組の井戸である。幅0.25mの縦板を12角形で組むが、すべて縦板は内外面とも炭化している。掘形は径1.7mの円形を呈する。縦板の残存高は井戸58と同じく2.2m、内径1mを測る。各縦板は「く」の字形に内側に折れた状態を呈する。おそらく板が炭化したことにより土圧が加わった結果と考えられる。井戸57は、井戸58の作り替えである。

土壙128・150 (図10・図版1・3の1と2)

A区東端部に位置する。両土壙は南北に並立する。

土壙128は、径2.5mの円形の掘形をもち、掘形内は挿鉢状に二段程の段差を呈している。その段差は桶を据えた痕跡と考えられる。底板の径1.7m、残存高0.3mを測る。埋土より比較的多くの土器類が出土した。

土壙150は、土壙128の南側に位置する。土壙128と同じく掘形は円形で径2mを測る。掘形内に桶を据えたとみられる痕跡を残す。底板の径1.4m、残存高0.3mを測る。この二基の土壙は同時期にセットで作られたものと考えられる。

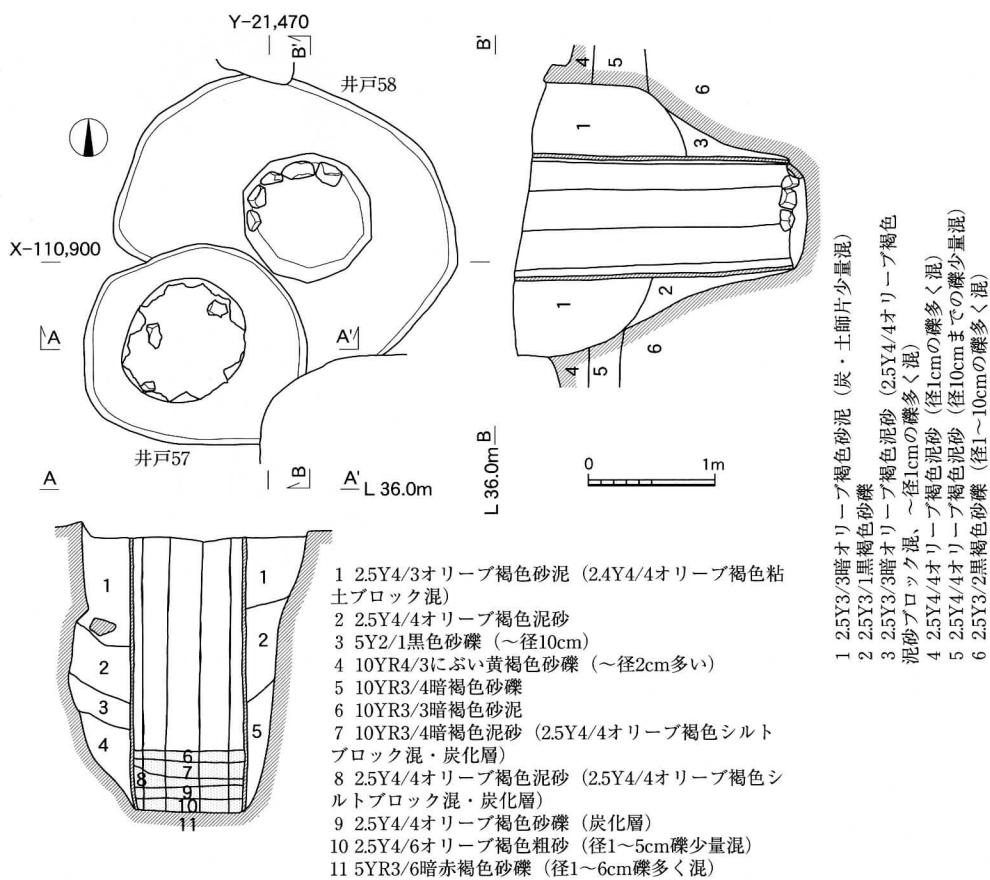


図9 井戸57・58実測図 (1/60)

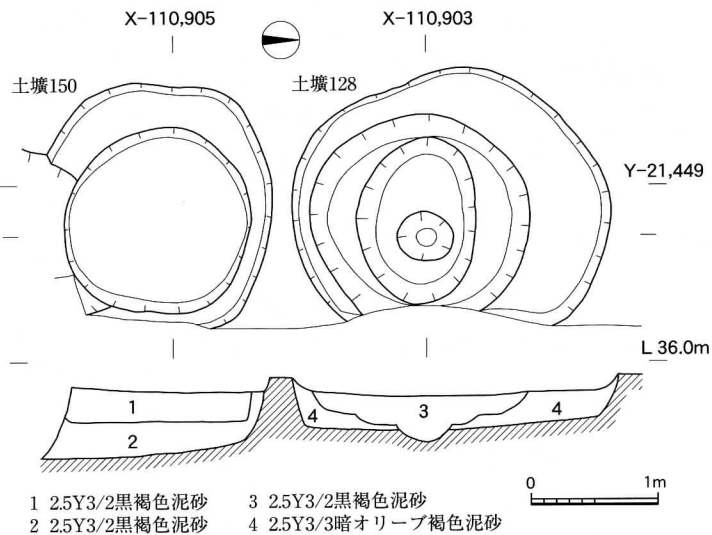


図10 土壙128・150実測図 (1/60)

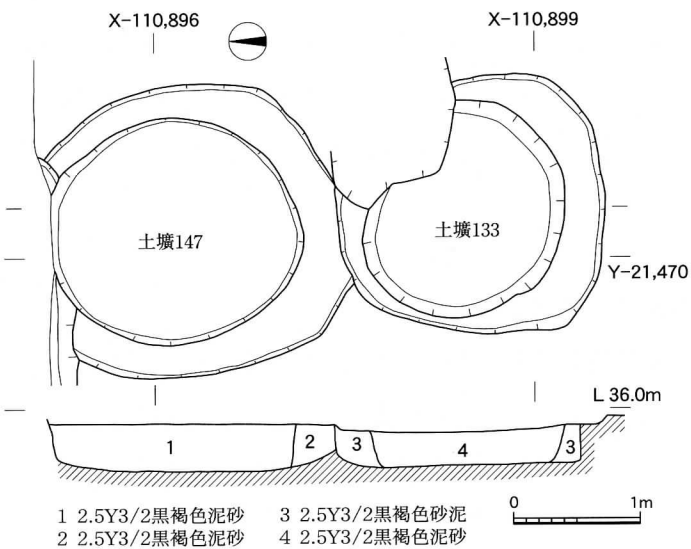


図11 土壙133・147実測図 (1/60)

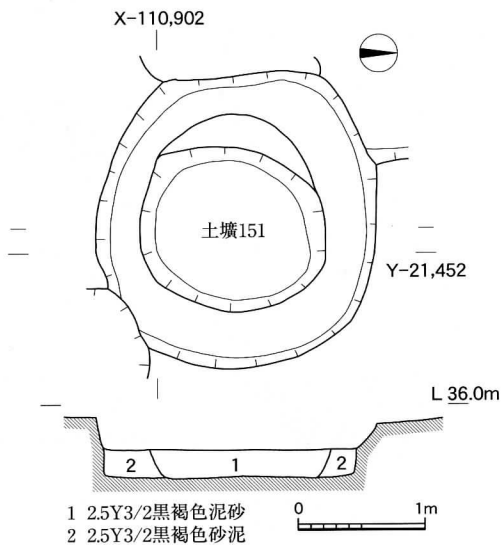


図12 土壙151実測図 (1/60)

土壙133・147 (図11・図版1・3の1と2)

A区東部北端に位置する。両土壙は南北に接して並立する。

土壙133は径2.1mの円形の掘形をもち、掘形内に桶を据えた痕跡が認められ、桶は径1.5m前後、残存高0.3mを測る。

土壙147はこの種の遺構の中で唯一桶状の木の痕跡が確認できた遺構である。桶の径1.8m程、残存高0.4mを測る。いずれの土壙も出土遺物は少なく小片が多い。

土壙151 (図12・図版1・3の1と2)

A区東部、土壙128の西側1mに単独で存在する。掘形は同じく円形で、径2.2m、桶を据えた痕跡は径1.5m、残存高0.3mを測る。

以上の桶を据えた土壙群は、遺構検出当初は桶内埋土と掘形埋土の色調及び土質ともにほとんど相違がなく、数センチ掘り下げた時点で、円形の痕跡が現れ、桶状のものを据えた遺構と判断できたものである。

土壙80 (図13・図版1・3の1と2・7の3)

A区中央北部に位置する。掘形は径1mの円形で挿鉢状を呈し、深さ0.4mを測る。埋土は上下2層に分かれ、上層上面に拳大の円礫が集積する。

溝508 (図4・図版7の5~7)

B区西端部に位置する。溝の東

肩部のみ確認できた。溝の幅は3m以上あり、深さは0.9mを測る。西肩は調査区外になり、全形不明。推定東洞院大路東側溝に位置する。室町時代の遺物が出土している。

落ち込み507 (図4・図版7の5と8)

B区の溝508の東部に位置する。幅2.5m、深さ0.8mを測る。推定東洞院東築地の宅地側にあり、築地内溝に相当する。

以上の他に、A区北壁部において近代の水琴窟を一基検出した。甕は高さ1m、胴部最大径0.8mを測り、比較的大きなものである。甕の掘形には椀瓦を多量に充填する。甕の上部は破壊されていたものの蹲踞を設えていたことがうかがえる。

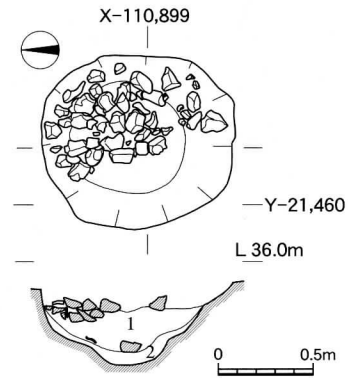


図13 土壌80実測図 (1/40)

#### IV 遺物

今回の調査では、弥生時代末期から古墳時代初期の土器や、古墳時代の須恵器、土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦器、焼締陶器、輸入陶磁器、瓦類などが出土しているが、多くは平安時代後期から室町時代後期のものである。以下、出土した遺物の主要なものについて述べる。

##### 土器・陶磁器類

北壁71層A地点他出土土器 (図14・図版2・5の7と8)

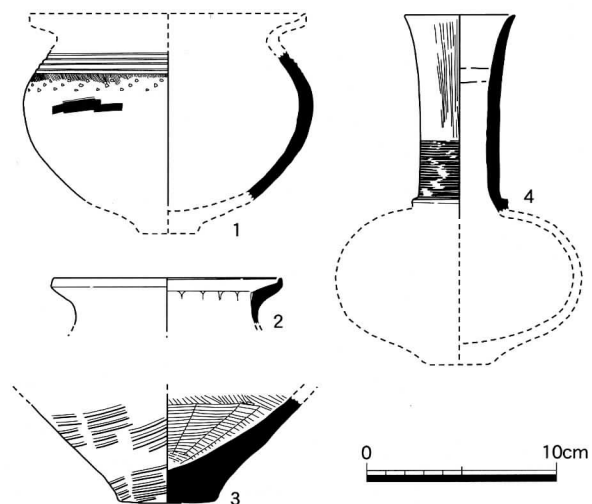
下層の礫層群より弥生時代後期末から古墳時代初期の土器が出土している。1～3は甕形土器で、1は体部外面には細かいハケ目が認められ、頸部から肩部に数条のヘラ描沈線とその下位に列点文を配す。2は器表が摩滅し、手法痕跡は確認できない。3は底部の破片で、外面はタタキ目痕、内面は連続するハケ目痕を残す。4は長い頸部をもつ壺形土器で、頸部と体部の接合部に小さな段がつく。外面は縦方向のミガキを施し、頸部下位にはクシ描きの沈線が巡る。

溝173出土土器 (図15・図版8)

土師器は皿A 5、皿N大の6がある。9は灰釉陶器の壺としているが、この形態のものは類例があまりない。土師器皿は京都V期古に属する形態のものである。

土壌163出土土器 (図15・図版8)

土師器皿A cの11～13、皿N小14～22、皿N大25～30がある。他に、口径的には中形に位置付けられる23・24があるが、これらは深手で、白色の皿Sに通ずる形



1: 北壁71層A地点、2: 北壁61層砂礫、  
3: 北壁69層B地点、4: IIC区砂礫直上

図14 北壁71層A地点他出土遺物実測図 (1/4)

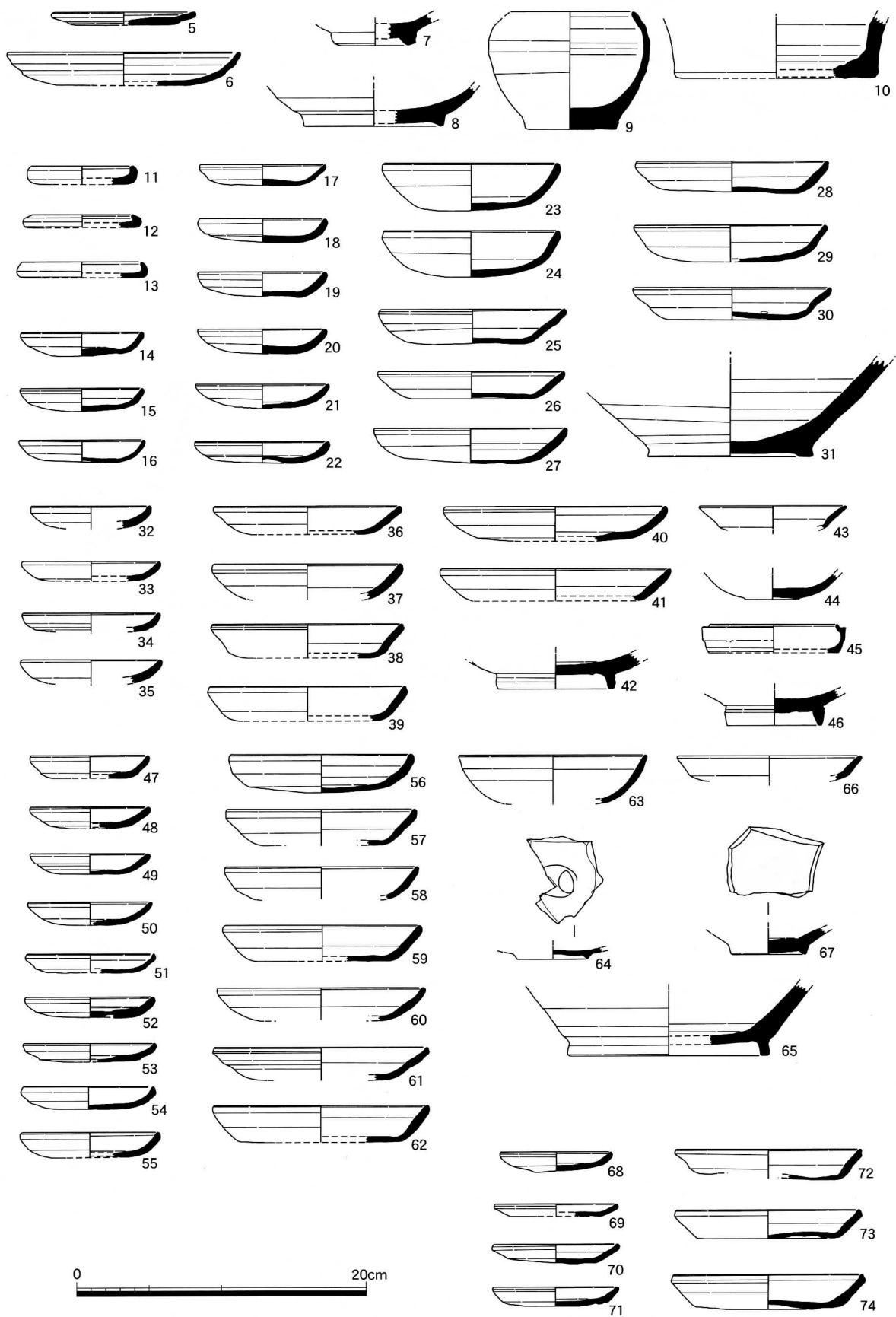


图15 溝173 (5~10)、土壙163 (11~31)、土壙165 (32~46)、土壙261 (47~67)、柱穴345 (68~74) 出土遺物実測図 (1/4)

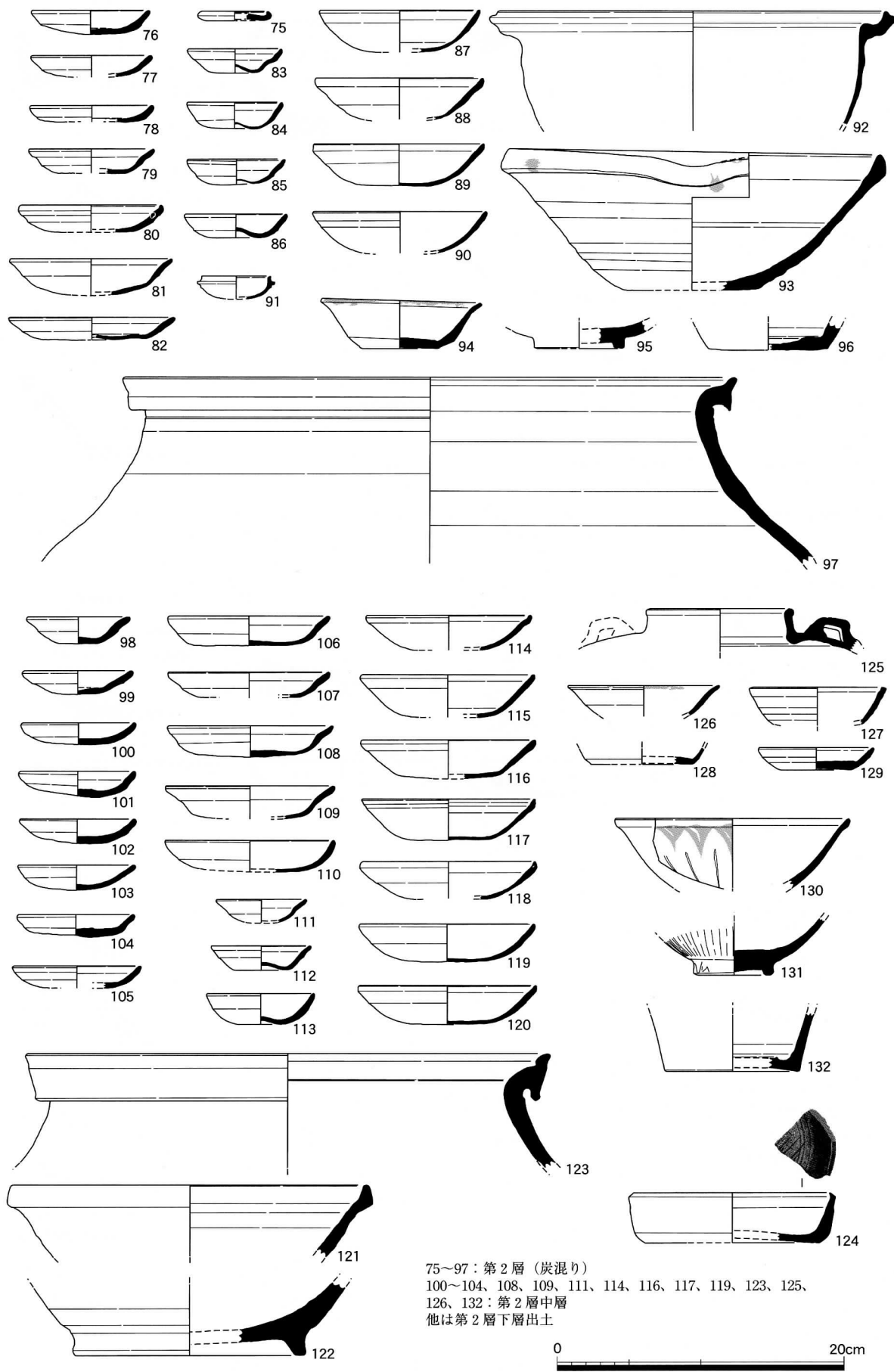


図16 井戸52第2層出土遺物実測図 (1/4)



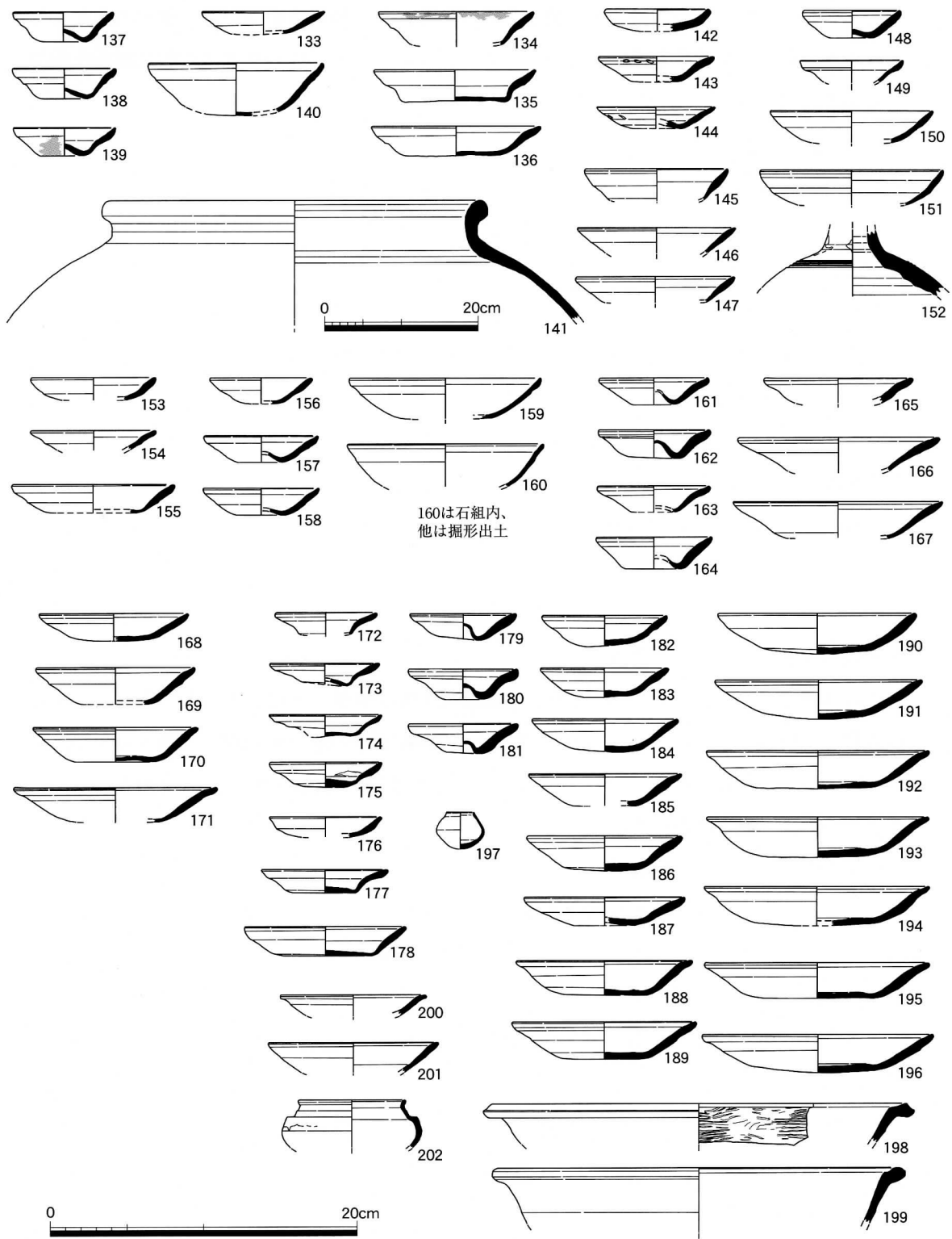


図17 井戸57 (133~141)、井戸58 (142~152)、井戸274 (153~160)、土壙231 (161~167)  
土壙150 (168~171)、土壙128 (172~202) 出土遺物実測図 (1/4)

態をしているが、胎土、色調は皿Nと同じものである。図示出来なかったが、皿Sの破片も出土しており、皿Sが共伴する例としては古いものとなる。土師器皿の型式は京都VI期中を前後する時期と見ている。

#### 土壙165出土土器 (図15)

土師器皿Nの小型32~35, 同皿N大36~41がある。京都VI期中を前後する型式に収まる一群と思われるがN大の40・41は京都V期の混入品であろう。42は灰釉陶器の椀、43~46は中国からの輸入磁器である。

#### 土壙261出土土器 (図15・図版8)

47~55は土師器皿Nの小型、56~62は皿Nの大型、63は土師器皿Sである。京都VI期中の幅に収まる型式のものとして見ている。64は瓦器椀の底部で、内面に粗い暗文が施されている。65は高台の付く灰釉陶器の鉢で、内面は平滑な使用痕が残る。東海地方産であろう。66・67は輸入の中国産磁器で66は竜泉窯系の青磁の皿、67は景德鎮窯系の青白磁の碗である。

#### 柱穴345出土土器 (図15・図版8)

土師器皿Nの小型68~71, 同皿N大72~74がある。京都VI期新を前後する幅に収まる一群と見ている。

#### 井戸52出土土器 (図16・図版9)

75~97は第2層の炭混りの土より、98~132は第2層の中層~下層から出土したものである。土師器皿Acは75が一点あるのみで、土師器皿Nの小型は76~79、98~105、同皿Nの大型は80~82、106~110がある。同皿Shは83~86、111~113、同皿Sは87~90、114~120がある。土師器皿の型式は京都VII期中の特徴に収まるものと思われる。91は土師器のミニチュアの羽釜でこの時期を中心によく見られる土器である。92は瓦器の鍋である。93、121、122は須恵器の鉢で、前二者は播磨産、後者は東海地方産と思われる。97、123は焼締陶器の甕で、いずれも常滑産である。124は内面に下ろし目を刻み灰釉を掛けた瀬戸産のいわゆるオロシメ皿である。94~96、125~132は中国産の輸入陶磁器である。94、126~129は白磁口元皿、95、130、131は青磁蓮弁文碗、96、125は褐釉陶器、132は鉄釉陶器の壺である。

#### 井戸57出土土器 (図17)

土師器皿N小型133、同皿N大型134~136、同皿Sh137~139、同皿S大140がある。京都VIII期中の幅に収まるものと思われる。141は焼締陶器の甕で備前産である。

#### 井戸58出土土器 (図17)

142~144は土師器皿N小型、145~147は同皿N大型、148・149は同皿Sh、150・151は同皿S。京都VIII期中の幅に収まる。152は瀬戸産の壺で、外面に灰釉がかかるが、ほとんど剥落している。梅瓶である可能性が高い。

#### 井戸274出土土器 (図17)

153・154は土師器皿N小型、155は同皿N大型、156~158は同皿Sh、159・160は同皿S。京都VIII期中~新の幅に収まる。

土壙231出土土器 (図17)

土師器皿 Shは161~164、同皿 Sは165~167がある。京都X期古に収まる型式である。

土壙150出土土器 (図17)

168~171は土師器皿 Sである。京都X期古に収まる型式である。

土壙128出土土器 (図17・図版10)

土師器皿 N小型には172~176、同皿 N中型で177、同皿 N大型は178がある。土師器皿 Shには179~181、同皿 Sbには182・183、同皿 Sでは184~196がある。形式的には京都X期古に収まる。197は土師器の小壺、198・199は瓦器の鍋、200~202は輸入陶磁器で200・201は白磁の皿、202は鉄釉の壺である。

土製品

有孔甗 (203) (図18)

井戸58より出土したもので、1/3ほどしか残存していないが、全形は直方体で二ヶ所に穴がある。中央は凹み、縄目痕を有する。胎土は粗く小石を含み、N8/0~同7/0灰白色を呈す。被熱痕が確認できる。

瓦類

幾何学文軒平瓦 (204) (図19・図版10)

柱穴407下層より出土。折曲げ技法で瓦当部を作り出し、瓦当部上端にケズリが入る。上面は粘土板切り出しの糸切り痕と布目痕が残る。裏面はあらくナデられているが、糸切り痕、縄目痕が認められる。胎土は5Y7/1灰白色で表面は炭素が吸着する。山城産。平安時代後期。

唐草文軒平瓦 (205) (図19・図版10)

土壙395より出土。瓦当裏面にまで布目痕が残る。

胎土は5Y8/1灰白色。

上面には布目痕、裏面には縄目痕が残り炭素が吸着する。山城産。

平安時代後期。

唐草文軒平瓦 (206) (図19・図版10)

土壙165第3層より出土。残存状況が悪く、

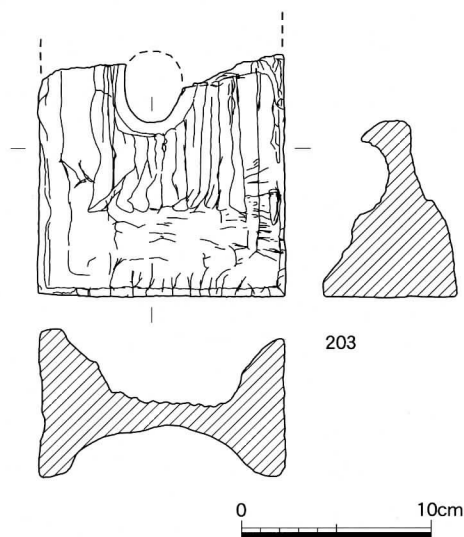
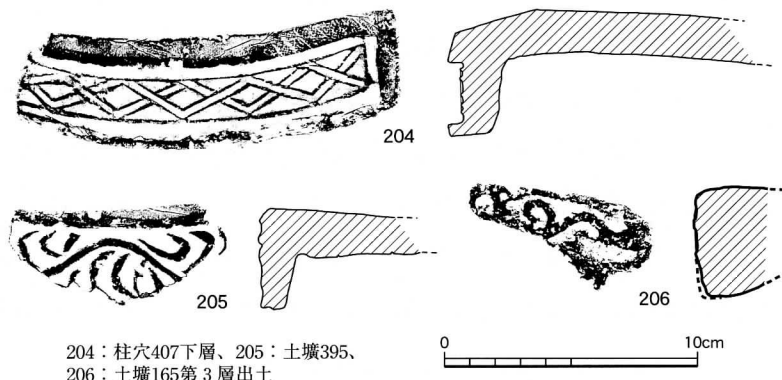


図18 井戸58出土甗実測図 (1/4)



204: 柱穴407下層、205: 土壙395、206: 土壙165第3層出土

図19 柱穴407・他出土軒瓦拓影・出土甗実測図 (1/3)

技法痕跡は観察できない。胎土はN8/0～同5/0灰色。山城西賀茂産。平安時代中期末。

## V 小 結

今回の調査において判明した注目すべき遺構としては、A調査区東部で検出した室町時代の土壙群がある。それらの土壙128・133・147・150・151は、当初掘形内に円形のを据えた痕跡が認められたものの、曲物なのか桶なのかが不明であった。その中で土壙147において木枠の痕跡がわずかに確認できた結果、桶状のを据えたものであることが判明した。他の土壙群も同様な底部が平坦な掘形をもつことからいずれも桶を据えた遺構であると認識するに至ったものである。これらの土壙群は近年における東京での江戸時代の発掘調査などで明らかとなっている、いわゆる「埋桶式便槽」<sup>註3</sup>と呼称されている便所遺構と同等のものと考えられる。いずれの土壙群も西三行北四門の東辺部に位置し、一町の中央部付近に存在する。西四行の高倉小路に面した町屋等の付随施設であろう。土壙128・150、土壙133・147のそれぞれは、二基が南北に並ぶ様に作られており、セット関係にあるものと考えられ、これらの遺構が共同便所である可能性を示唆する。土壙群からの出土遺物はX期古のもので、およそ16世紀前半期に比定できる。なお、土壙165も同様な遺構であるが、出土遺物がVI期中のものが大半で、上記の土壙群とは年代の隔たりが大きい。図示した遺物がすべて混入品とは言い難い面もあるが、ここでは土壙165の年代を留保しておく。

井戸57・58は室町時代の井戸には希な多角形の縦板組の井戸である。井戸57は12角形、井戸58は10角形である。いずれも幅0.2～0.3cmの板を多角形に縦板に組む。井戸57の木枠は上端から下端まで完全に炭化しており、何らかの理由で二次焼成を受けたものと考えられるが、井戸の構造上そのようなことが可能かどうか検討を要する。井戸58の底部には石組が一段残存している。井戸57は井戸58の作り替えの関係にある。出土遺物はいずれもⅧ期中で、14世紀末から15世紀前半に比定できる。

B調査区は東洞院大路東側溝の検出を目的に設定したものであるが、既存建物コンクリート基礎が広範囲に残存しており、十分な広さの調査ができなかった。溝508は推定東洞院大路東側溝の位置にあり、幅が3m以上の川状を呈する。これまでの調査例より東洞院東側溝は中世以降において幅の広い川状のものになっていることが判明しており、同様な状況を呈する。落ち込み507は推定東洞院東築地内溝の可能性が高い。

今回の調査地は、地表下1～1.4m程で平安時代の遺構が成立し、以下全域砂礫層のベースとなるが、この砂礫層は弥生時代後期の遺物を包含する。断ち割り調査の結果、地表下3mまでの砂礫層に弥生土器を包含することを確認した（以下は未掘のため不明である）。A地点出土遺物（1）は標高34.6mに位置し、出土した弥生土器では最下位に属する。当地が含まれる烏丸綾小路遺跡（弥生から古墳時代の集落跡）は、従来より鴨川扇状地の微高地形成部に分布する集落跡と考えられているが、これまでの周辺の調査で検出されている弥生時代の竪穴住居跡や溝などの遺構分布の有り様と、今回の弥生土器を包含する砂礫層との関係をあらためて検

証する必要がある、今後の検討課題としたい。

- 註1 角川日本地名大辞典 26京都府 角川書店 1991年  
日本歴史地名体系27 京都市の地名 平凡社 1979年  
山田邦和「左京と右京」『平安京提要』 (財)古代学協会・古代学研究所 1994年
- 註2 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年」『研究紀要第3号』  
(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 註3 『図説 江戸考古学研究事典』 江戸遺跡研究会 2001年

表1 遺物観察表

北壁71層A地点他(図14)

No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
1	弥生土器	甕形土器			粗小石混	10YR6/4 にぶい黄橙色～7.5YR7/4 にぶい橙色		北壁71層A地点
2	弥生土器	甕形土器	12.0		良小石混	10YR7/2 にぶい黄橙色～器表5YR7/6 橙色		北壁61層砂礫
3	弥生土器	甕形土器			粗小石混	5YR6/6 橙色～同6/3 にぶい橙色		北壁69層B地点
4	弥生土器	壺形土器	5.8		良小石混	10YR8/2 灰白色～7.5YR7/4 にぶい橙色		IIC区砂礫直上

溝173(図15・図版8)

No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
5	土師器	皿A	9.8	(0.9)	良	10YR8/3 浅黄橙色		IIID区
6	土師器	皿N大	16	(2.3)	精良	10YR8/2 灰白色		IIID区
7	輸入白磁	碗			精良	胎土N8/0 灰白色、釉5Y8/2 灰白色		東端部
8	灰釉陶器	椀			精良	5Y7/1 灰白色	内面擦痕、朱の痕跡あり	IIID区
9	灰釉陶器	壺	8.7	8.2	精良	胎土2.5Y6/1 黄灰色～5Y6/2 灰オリーブ色の降下釉(肩部、口縁、内面)	底部糸切り	IIID区
10	須恵器	壺			良	N5/0 灰色		東端部

土壙163(図15)

No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
11	土師器	皿Ac	7.0	(1.3)	精良	7.5YR8/3 浅黄橙色		
12	土師器	皿Ac	6.9	(0.9)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		
13	土師器	皿Ac	8.2	(1.1)	精良	2.5Y8/1 灰白色		
14	土師器	皿N小	8.3	1.7	精良	10YR7/2 にぶい黄橙色		
15	土師器	皿N小	8.4	1.6	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		
16	土師器	皿N小	8.5	1.6	精良	10YR7/2 にぶい黄橙色		
17	土師器	皿N小	8.6	1.5	粗	10YR7/3 にぶい黄橙色		
18	土師器	皿N小	8.6	1.7	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		
19	土師器	皿N小	8.7	1.8	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		
20	土師器	皿N小	8.7	1.7	粗	10YR7/2 にぶい黄橙色	灯芯痕	
21	土師器	皿N小	9.1	1.7	精良	7.5YR8/4 浅黄橙色	被熱痕	
22	土師器	皿N小	9.2	1.6	精良	7.5YR7/3 にぶい橙色		
23	土師器	皿N(S)	11.8	3.3	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色～同6/1 褐灰色		
24	土師器	皿N(S)	12.0	3.3	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		
25	土師器	皿N大	12.6	2.4	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		
26	土師器	皿N大	12.8	1.9	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		
27	土師器	皿N大	13.1	2.5	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		
28	土師器	皿N大	13.1	2.3	精良	7.5YR7/3 にぶい橙色		
29	土師器	皿N大	13.1	2.6	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		
30	土師器	皿N大	13.6	2.2	精良	7.5YR7/3 にぶい橙色	底部に径6mmの穴	
31	須恵器	鉢			精良	5Y7/1 灰白色	内面に擦痕(使用痕)あり。高台は貼り付け	

土壙165(図15)

No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
32	土師器	皿N小	8.2	(1.6)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		第3層
33	土師器	皿N小	9.3	(1.3)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		第1層
34	土師器	皿N小	9.3	(1.3)	精良	5YR6/4 にぶい橙色		第3層
35	土師器	皿N小	9.5	(1.6)	精良	7.5YR7/3 にぶい橙色		第1層
36	土師器	皿N大	12.8	(2.0)	精良	10YR6/3 にぶい黄橙色～7.5YR6/3 にぶい褐色		掘形
37	土師器	皿N大	12.8	(2.4)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		最下層
38	土師器	皿N大	13.0	(2.4)	精良	10YR7/4 にぶい黄橙色		第3層
39	土師器	皿N大	13.4	(2.4)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		最下層
40	土師器	皿N大	15.2	(2.4)	精良	10YR8/3 浅黄橙色		第3層
41	土師器	皿N大	15.7	(2.3)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		最下層
42	灰釉陶器	椀			粗	2.5Y6/2 灰黄色		第3層
43	輸入青磁	皿	10.0		精良	胎土7.5Y7/1 灰白色、釉同6/2 灰オリーブ色		第3層

No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
44	輸入白磁	皿			精良	胎土 2.5Y8/1 灰白色、釉 5Y8/2 灰白色		掘形
45	輸入青白磁	合子身	8.8	(2.0)	精良	胎土 N8/0 灰白色、釉 2.5GY8/1 灰白色		最下層
46	輸入白磁	碗			精良	胎土 5Y7/1 灰白色、釉 5Y7/2 灰白色		第1層

土壙 261

No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
47	土師器	皿 N 小	8.0	(1.6)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		第1層
48	土師器	皿 N 小	8.1	1.5	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		第1層
49	土師器	皿 N 小	8.0	1.5	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色～同 6/4 にぶい橙色		土器溜り
50	土師器	皿 N 小	8.4	1.6	精良	7.5YR7/3 にぶい橙色		第2層
51	土師器	皿 N 小	8.7	(1.3)	良	7.5YR7/4 にぶい橙色		
52	土師器	皿 N 小	8.8	1.5	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		土器溜り
53	土師器	皿 N 小	8.9	1.3	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		土器溜り
54	土師器	皿 N 小	8.9	(1.6)	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		
55	土師器	皿 N 小	9.4	(1.8)	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		土器溜り
56	土師器	皿 N 大	12.4	2.6	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		土器溜り
57	土師器	皿 N 大	12.8	(2.5)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		土器溜り
58	土師器	皿 N 大	13.2	(2.3)	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		土器溜り
59	土師器	皿 N 大	13.4	(2.5)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		
60	土師器	皿 N 大	14.2	(2.3)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		土器溜り
61	土師器	皿 N 大	14.7	(2.3)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		第1層
62	土師器	皿 N 大	14.7	(2.6)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		第1層
63	土師器	皿 S	12.8	(3.4)	精良	2.5Y8/1 灰白色		土器溜り
64	瓦器	椀			精良	胎土 N7/0 灰白色、器表 N4/0 灰色	内面に粗い暗文	第2層
65	灰釉陶器	鉢			精良	2.5Y8/1 灰白色	内面に降下釉、見込部分に擦痕	第1層
66	輸入青磁	皿	12.5		精良	胎土 N6/0 灰色、釉 2.5GY5/1 オリーブ灰色		第2層
67	輸入青白磁	碗			精良	胎土 N8/0 灰白色、釉 2.5GY8/1 灰白色～7.5GY8/1 明緑灰色		第1層

柱穴 345

No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
68	土師器	皿 N 小	7.6	1.4	精良	10YR7/2 にぶい黄橙色		
69	土師器	皿 N 小	8.4	(0.9)	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		
70	土師器	皿 N 小	8.5	1.4	精良	10YR7/2 にぶい黄橙色		
71	土師器	皿 N 小	8.6	1.4	精良	10YR6/2 灰黄褐色		
72	土師器	皿 N 大	12.8	(2.2)	精良	10YR7/4 にぶい黄橙色		
73	土師器	皿 N 大	12.6	(1.8)	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色、口縁一部変色(10YR6/1 ～同 5/1 褐灰色)		
74	土師器	皿 N 大	13.0	2.5	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		

井戸 52 内第2層

No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
75	土師器	皿 Ac	4.6	(0.7)	精良	10YR8/2 灰白色		第2層 (炭混り)
76	土師器	皿 N 小	8.1	1.7	精良	10YR8/3 浅黄橙色		第2層 (炭混り)
77	土師器	皿 N 小	8.2	(1.5)	良	7.5YR7/3 にぶい橙色		第2層 (炭混り)
78	土師器	皿 N 小	8.4	(1.2)	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		第2層 (炭混り)
79	土師器	皿 N 小	8.6	(1.7)	精良	7.5YR6/4 にぶい橙色		第2層 (炭混り)
80	土師器	皿 N 大	9.8	(1.9)	精良	7.5YR7/3 にぶい橙色		第2層 (炭混り)
81	土師器	皿 N 大	11.2	(2.6)	精良	10YR8/3 浅黄橙色～同 7/3 にぶい黄橙色		第2層 (炭混り)
82	土師器	皿 N 大	12.6	(1.6)	精良	10YR8/3 浅黄橙色～同 7/3 にぶい黄橙色		第2層 (炭混り)
83	土師器	皿 Sh	6.4	1.7	精良	10YR8/1 灰白色		第2層 (炭混り)
84	土師器	皿 Sh	6.6	1.8	精良	10YR8/1 灰白色		第2層 (炭混り)
85	土師器	皿 Sh	6.8	1.8	精良	2.5Y8/2 灰白色		第2層 (炭混り)
86	土師器	皿 Sh	7.0	1.7	良	2.5Y8/2 灰白色	内外面炭素付着	第2層 (炭混り)
87	土師器	皿 S	11.1	(2.9)	精良	2.5Y8/1 灰白色		第2層 (炭混り)

No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
88	土師器	皿 S	11.7	(3.0)	精良	2.5Y8/1 灰白色		第2層(炭混り)
89	土師器	皿 S	11.8	3.0	精良	2.5Y8/2 灰白色		第2層(炭混り)
90	土師器	皿 S	12.0	(3.0)	精良	2.5Y8/2 灰白色		第2層(炭混り)
91	土師器	ミニチュ ア羽釜	4.8	(1.7)	精良	10YR8/3 浅黄橙色		第2層(炭混り)
92	瓦器	鍋	27.0		良	N5/0 灰色~同 4/0 灰色		第2層(炭混り)
93	須恵器	鉢	25.8		精良	N5/0 灰色	播磨産、底部糸切り	第2層(炭混り)
94	輸入白磁	口元皿	10.9	3.5	精良	胎土 2.5Y7/1 灰白色~7.5YR6/4 にぶ い橙色、釉 7.5Y8/1 灰白色	口縁に炭素付着、被熱 痕	第2層(炭混り)
95	輸入青磁	碗			精良	胎土 7.5Y6/1 灰色~N4/0 灰色、釉 7.5Y5/3 灰オリーブ色		第2層(炭混り)
96	輸入褐釉 陶器	壺			精良	5Y7/1 灰白色~N5/0 灰色		第2層(炭混り)
97	焼締陶器	甕	42.4		精良	5YR6/6 橙色~同 5/6 明赤褐色	常滑産	第2層(炭混り)
98	土師器	皿 N 小	7.0	1.9	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		第2層下層
99	土師器	皿 N 小	7.5	1.7	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		第2層下層
100	土師器	皿 N 小	7.8	1.6	精良	7.5YR8/4 浅黄橙色~10YR7/2 にぶい 黄橙色		第2層中層
101	土師器	皿 N 小	7.9	1.8	精良	10YR7/2 にぶい黄橙色		第2層中層
102	土師器	皿 N 小	7.9	1.7	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		第2層中層
103	土師器	皿 N 小	8.0	1.8	精良	10YR7/2 にぶい黄橙色~同 6/1 褐灰色		第2層中層
104	土師器	皿 N 小	8.0	1.6	精良	2.5Y7/2 灰黄色~2.7Y6/1 黄灰色		第2層中層
105	土師器	皿 N 小	8.7	(1.5)	良	7.5YR7/4 にぶい橙色~同 6/1 褐灰色		第2層下層
106	土師器	皿 N 大	11.0	2.1	精良	7.5YR7/3 にぶい橙色		第2層下層
107	土師器	皿 N 大	11.1	(1.8)	精良	7.5YR7/3 にぶい橙色~10YR7/4 にぶ い黄橙色		第2層下層
108	土師器	皿 N 大	11.4	2.2	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		第2層中層
109	土師器	皿 N 大	11.5	(2.3)	精良	10YR7/2 にぶい黄橙色		第2層中層
110	土師器	皿 N 大	11.6	(2.2)	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		第2層下層
111	土師器	皿 Sh	6.6	(1.7)	精良	2.5Y8/1 灰白色		第2層中層
112	土師器	皿 Sh	6.9	1.7	精良	2.5Y8/2 灰白色		第2層下層
113	土師器	皿 Sh	7.4	2.1	良	2.5Y8/2 灰白色	口縁内外に炭素付着	第2層下層
114	土師器	皿 S	11.4	(2.4)	精良	10YR8/1 灰白色		第2層中層
115	土師器	皿 S	11.9	(3.0)	精良	10YR8/2 灰白色		第2層下層
116	土師器	皿 S	12.0	(2.7)	精良	10YR8/2 灰白色		第2層中層
117	土師器	皿 S	12.0	2.9	精良	2.5Y8/1 灰白色		第2層中層
118	土師器	皿 S	12.1	(2.6)	精良	10YR8/2 灰白色		第2層下層
119	土師器	皿 S	12.1	2.7	精良	10YR8/2 灰白色	内面一部に炭素付着	第2層中層
120	土師器	皿 S	12.3	2.7	良	10YR8/1 ~同 8/2 灰白色		第2層下層
121	須恵器	鉢	24.5		精良	5Y7/1 灰白色	播磨産、口縁外周に炭 素付着	第2層下層
122	須恵器	鉢			精良	N7/0 灰白色~同 6/0 灰色	東海地方産、内面擦痕	第2層下層
123	焼締陶器	甕	36.2		精良	胎土 N 6/0 灰色、器表 7.5YR4/4 褐色 ~同 5/2 灰褐色	常滑産	第2層中層
124	瀬戸	下ろし 目皿	13.6	3.5	精良	胎土 N 7/0 灰白色、釉 2.5GY7/1 オリー ブ灰色~10YR5/4 にぶい黄褐色	見込部分に下ろし目	第2層下層
125	輸入褐釉 陶器	耳付壺	9.6	(3.0)	精良	N7/0 灰白色	外面の釉は剥落する	第2層中層
126	輸入白磁	口元皿	10.5	(2.2)	精良	胎土 N 8/0 灰白色、釉 10YR8/1 灰白色	口縁炭素付着	第2層中層
127	輸入白磁	口元皿	9.0	(2.6)	精良	胎土 N 8/0 灰白色、釉 7.5Y7/1 灰白色		第2層下層
128	輸入白磁	口元皿			精良	胎土 N 7/0 灰白色、釉 7.5Y7/1 灰白色		第2層下層
129	輸入白磁	口元皿	7.9	1.6	精良	胎土 2.5Y7/1 灰白色、釉 10Y7/1 灰白 色		第2層下層
130	輸入青磁	蓮弁文碗	16.2	(4.9)	精良	胎土 N 6/0 灰色、釉 10Y5/2 オリーブ 灰色		第2層下層
131	輸入青磁	蓮弁文碗			精良	胎土 N 6/0 灰色、釉 10Y5/2 オリーブ 灰色		第2層下層
132	輸入鉄釉 陶器	壺			精良	胎土 2.5YR5/4 にぶい赤褐色、釉 7.5YR4/3 褐色		第2層中層

井戸57 (図17)

No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
133	土師器	皿 N 小	7.9	(1.5)	良	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁から外面一部に鉄 分付着	最下層
134	土師器	皿 N 大	10.0	(2.2)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色	灯芯痕	第5層
135	土師器	皿 N 大	10.4	2.1	精良	7.5YR7/3 にぶい橙色		第1層



No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
136	土師器	皿 N 大	10.9	2.0	精良	7.5YR8/4 浅黄橙色		第1層
137	土師器	皿 Sh	6.4	2.0	精良	10YR8/2 灰白色		最下層
138	土師器	皿 Sh	6.5	2.0	精良	2.5Y8/2 灰白色		第5層
139	土師器	皿 Sh	6.6	1.9	精良	10YR8/2 灰白色、外面一部黒ずむ		第6層
140	土師器	皿 S	11.3	(3.4)	精良	10YR8/2 灰白色		第6層
141	焼締陶器	甕	48.2		精良	胎土 N7/0 灰白色、器表 7.5YR4/3 褐色、灰白色の降下釉	備前産	第5層

井戸58 (図17)

No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
142	土師器	皿 N 小	6.6	(1.5)	精良	7.5YR6/4 にぶい橙色		第2層
143	土師器	皿 N 小	7.4	(1.7)	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色	被熱痕	第5層
144	土師器	皿 N 小	7.6	(2.0)	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色～同 5/1 褐灰色		断割り第1層
145	土師器	皿 N 大	9.2	(2.1)	精良	10YR6/4 にぶい黄橙色～同 6/1 褐灰色	被熱痕	第5層
146	土師器	皿 N 大	10.2	(1.7)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		第3層
147	土師器	皿 N 大	10.2	(1.7)	精良	10YR7/4 にぶい黄橙色、一部黒変する		第6層 (磔混)
148	土師器	皿 Sh	6.2	1.8	精良	2.5Y8/2 灰白色～10YR8/2 灰白色	被熱痕	第4層 (磔混)
149	土師器	皿 Sh	6.6	(1.4)	精良	2.5Y8/1 灰白色		
150	土師器	皿 S	10.4	(2.1)	精良	10YR8/2 灰白色	灯芯痕、一部黒変する	第4層 (磔混)
151	土師器	皿 S	11.8	(2.3)	精良	10YR8/2 灰白色		第3層
152	瀬戸	壺			精良	N7/0 灰白色、釉 7.5Y7/2 灰白色	外面施釉、釉はほとんど剥落する	第5層

井戸274 (図17)

No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
153	土師器	皿 N 小	8.0	(1.5)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		掘形
154	土師器	皿 N 小	8.0	(1.3)	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色		掘形
155	土師器	皿 N 大	10.5	(1.9)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		掘形第2層
156	土師器	皿 Sh	6.5	(1.7)	精良	2.5Y8/2 灰白色～N6/0 灰色		掘形
157	土師器	皿 Sh	7.3	1.8	精良	10YR8/3 浅黄橙色		掘形第1層
158	土師器	皿 Sh	7.5	1.8	精良	10YR8/2 灰白色～同 8/3 浅黄橙色		掘形第1層
159	土師器	皿 S	12.4	(2.7)	精良	10YR8/2 灰白色		掘形
160	土師器	皿 S	12.7	(2.8)	精良	2.5Y8/2 灰白色		石組内第3層

土壙231 (図17)

No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
161	土師器	皿 Sh	7.0	1.8	精良	10YR8/2 灰白色		上面
162	土師器	皿 Sh	7.2	1.9	精良	2.5Y8/2 灰白色		上面
163	土師器	皿 Sh	7.2	1.7	精良	10YR8/1 灰白色		上面
164	土師器	皿 Sh	7.4	2.1	精良	10YR8/2 灰白色～7.5YR2 灰白色		上面
165	土師器	皿 S	9.5	1.7	精良	7.5YR8/4 浅黄橙色	灯芯痕	上面
166	土師器	皿 S	12.8	2.2	精良	10YR8/3 浅黄橙色		上面
167	土師器	皿 S	13.6	2.4	精良	10YR8/3 浅黄橙色		上面

土壙150 (図17)

No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
168	土師器	皿 S	9.6	1.8	精良	2.5Y8/2 灰白色	灯芯痕	
169	土師器	皿 S	10.2	(2.4)	精良	10YR8/2 灰白色～7.5YR8/3 浅黄橙色		
170	土師器	皿 S	10.5	2.3	精良	7.5YR8/4 浅黄橙色	灯芯痕	
171	土師器	皿 S	13.2	(2.3)	精良	10YR8/2 灰白色～7.5YR8/3 浅黄橙色		

土壙128 (図17・図版10)

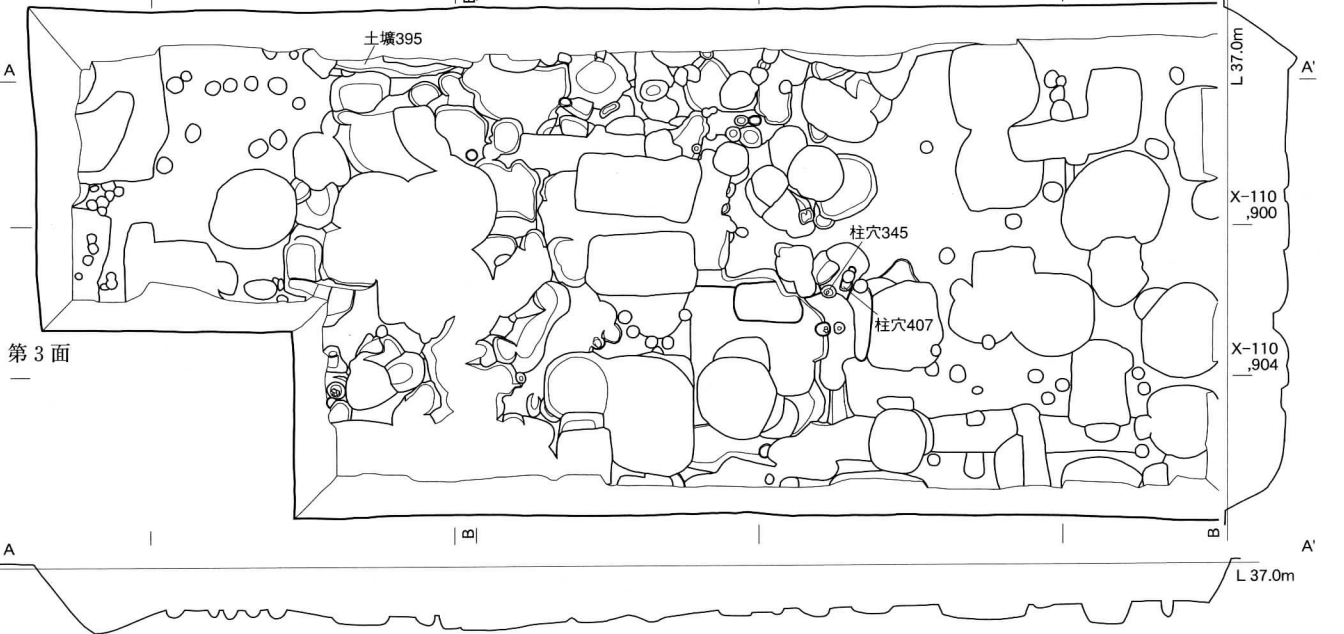
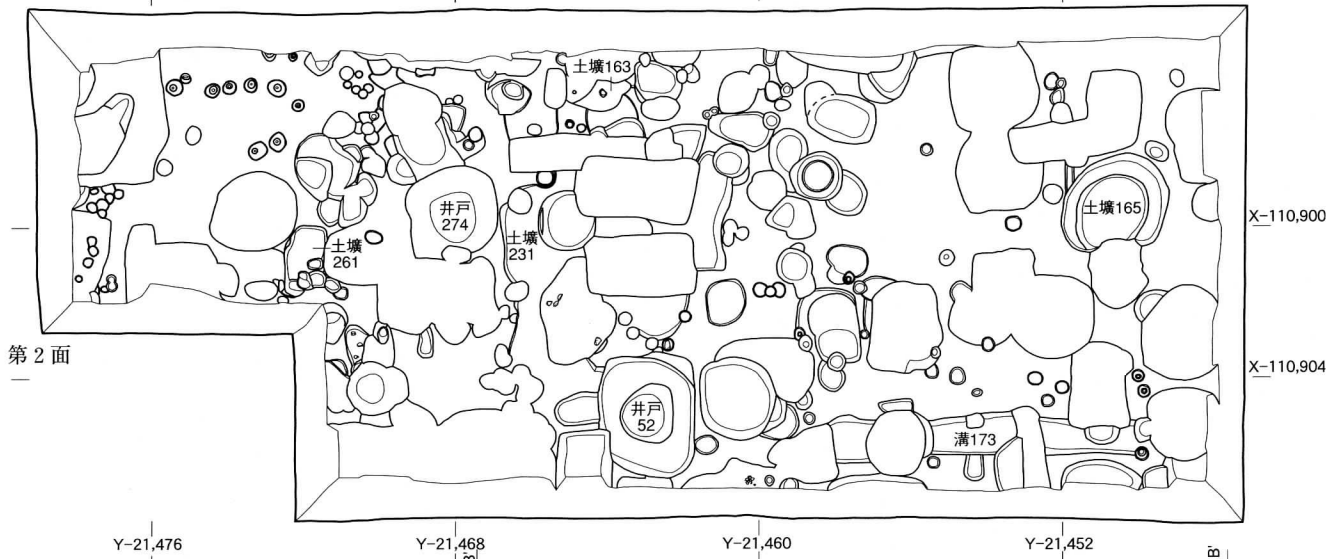
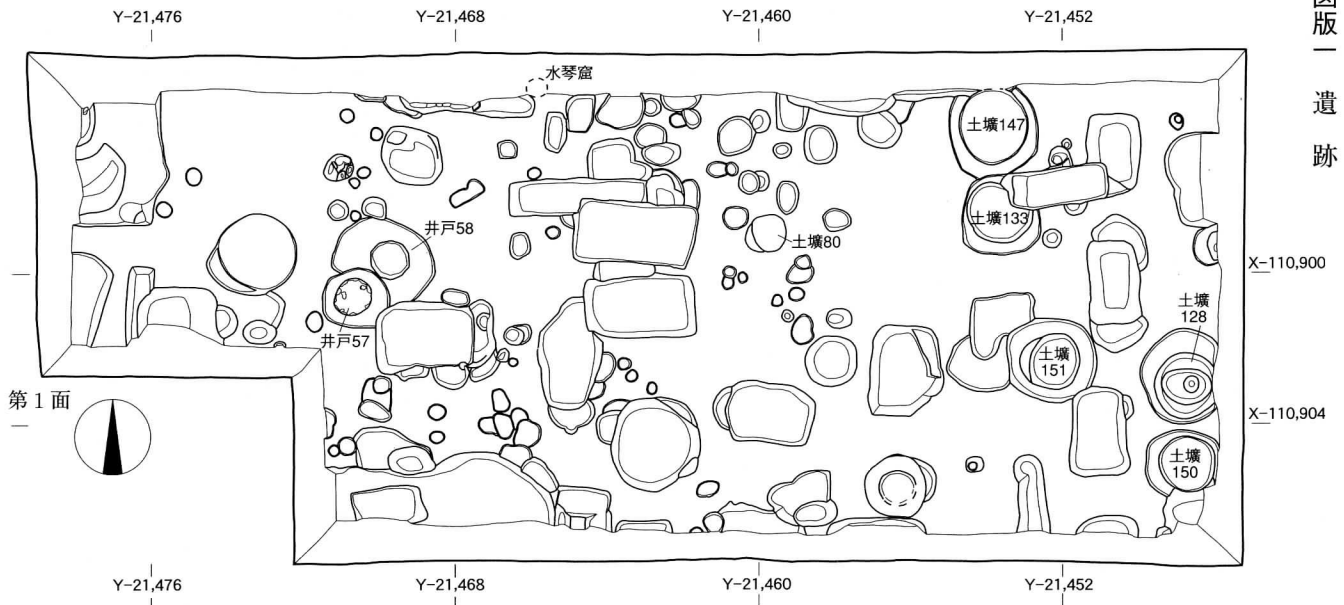
No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色調	備考	層位
172	土師器	皿 N 小	6.6	(1.5)	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色		掘形
173	土師器	皿 N 小	7.0	1.5	精良	2.5Y7/1 灰白色～同 6/1 黄灰色		
174	土師器	皿 N 小	7.2	1.5	精良	7.5YR7/3 にぶい橙色	一部黒変	
175	土師器	皿 N 小	7.2	1.7	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色～同 7/1 灰白色		
176	土師器	皿 N 小	7.2	(1.4)	精良	10YR8/2 灰白色		掘形
177	土師器	皿 N 中	8.2	1.6	精良	10YR7/3 にぶい黄橙色～7.5YR6/4 にぶい橙色	被熱痕	第1層
178	土師器	皿 N 大	10.4	2.0	精良	7.5YR7/4 にぶい橙色～同 6/3 にぶい褐色	被熱痕	第1層
179	土師器	皿 Sh	6.8	1.8	精良	5YR7/6 橙色		
180	土師器	皿 Sh	7.0	2.0	精良	7.5YR8/1 灰白色～同 8/4 浅黄橙色	灯芯痕	
181	土師器	皿 Sh	7.0	2.0	精良	5YR8/4 淡橙色～7.5YR7/3 浅黄橙色		

No.	種類	器形	口径	器高	胎土	色 調	備 考	層 位
182	土師器	皿 S b	8.0	2.1	精良	10YR8/2 灰白色	灯芯痕	
183	土師器	皿 S b	8.2	2.0	精良	10YR8/2 灰白色～7.5YR8/3 浅黄橙色	灯芯痕	
184	土師器	皿 S	9.4	2.2	良	7.5YR8/4 浅黄色～同 7/4 にぶい橙色	口縁全周に灯芯痕	第 1 層
185	土師器	皿 S	9.8	(2.1)	精良	7.5YR8/3 浅黄橙色	灯芯痕	
186	土師器	皿 S	9.9	2.3	精良	7.5YR8/2 灰白色～同 7/4 にぶい橙色	灯芯痕	
187	土師器	皿 S	10.4	1.9	精良	10YR8/2 灰白色～5YR8/3 淡橙色	灯芯痕	第 1 層
188	土師器	皿 S	11.4	2.3	精良	10YR8/4 浅黄橙色	被熱痕	
189	土師器	皿 S	11.9	2.5	精良	10YR8/2 灰白色～5YR8/3 淡橙色		
190	土師器	皿 S	12.8	2.7	精良	10YR8/4 浅黄橙色～一部 2.5YR7/6 橙色	被熱痕	
191	土師器	皿 S	13.4	2.6	精良	5YR7/4 にぶい橙色～同 YR7/6 橙色		
192	土師器	皿 S	14.4	2.5	精良	5YR7/4 にぶい橙色～同 YR7/6 橙色		
193	土師器	皿 S	14.3	2.7	精良	10YR8/4 浅黄橙色	被熱痕	第 1 層
194	土師器	皿 S	14.6	(2.6)	精良	5YR7/4 にぶい橙色～同 YR7/6 橙色		
195	土師器	皿 S	14.5	2.4	精良	7.5YR8/4 浅黄色～5YR8/4 淡橙色		
196	土師器	皿 S	15.0	2.6	精良	10YR8/4 浅黄橙色	被熱痕	第 1 層
197	土師器	小壺	1.7	2.4	精良	2.5Y8/1 灰白色		
198	瓦器	鍋	27.0		精良	2.5Y8/1 灰白色	被熱により炭素とぶ	
199	瓦器	鍋	26.4		精良	2.5Y8/2 灰白色	被熱により炭素とぶ	
200	輸入白磁	皿	9.4		精良	胎土 N 8/0 灰白色、釉 10Y7/1 灰白色		掘形
201	輸入白磁	皿	11.0		精良	胎土 N 8/0 灰白色、釉 7.5Y7/1 灰白色		
202	輸入鉄釉陶器	壺	6.8		精良	胎土 2.5Y5/1 黄灰色、釉 2.5Y4/2 暗灰黄色		

## 報告書抄録

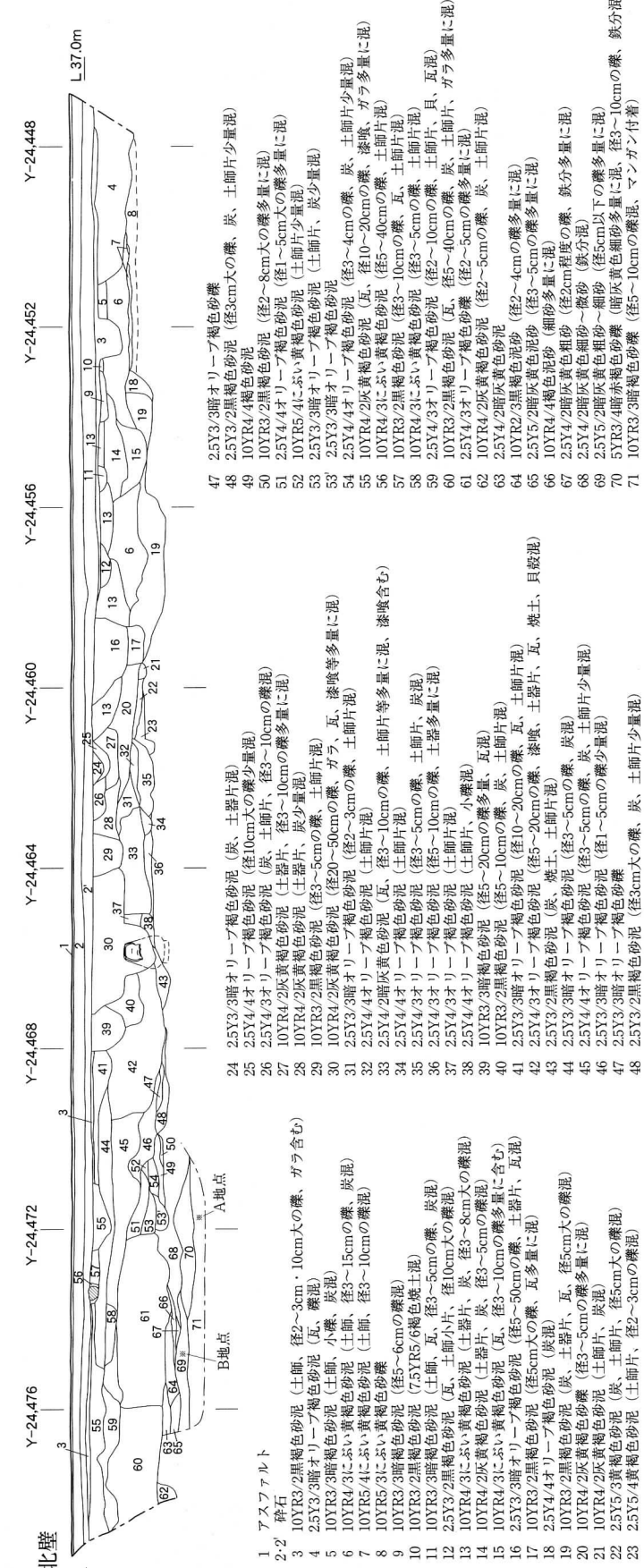
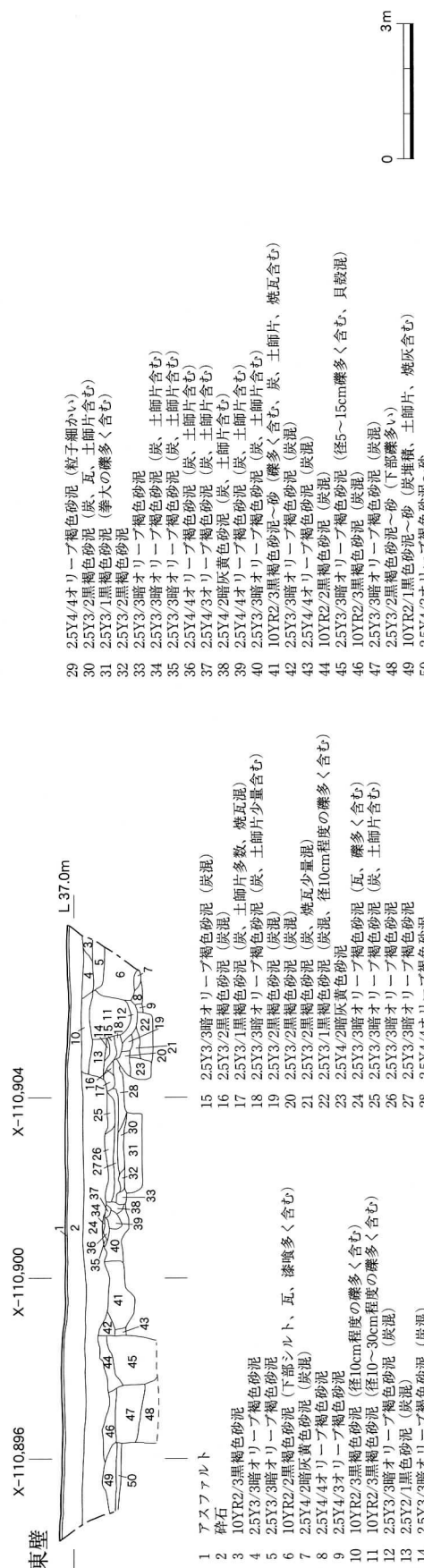
ふりがな	へいあんきょうさきょうごじょうしほういっちょう							
書名	平安京左京五条四坊一町							
副書名	四条高倉マンション新築に伴う調査							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	家崎孝治 上村憲章							
編集機関	古代文化調査会							
所在地	〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地125-1404							
発行年月日	2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうさきょう 平安京左京 ごじょうしほういっ 五条四坊一 ちょうあと 町跡 からすまあやのこうじ 烏丸綾小路 いせき 遺跡	きょうとししもぎょう 京都市下京 くわがしのとういんとおり 区東洞院通 しじょうさがるもと 四条下る元 あくおうじちょう 悪王子町42 他	26100		35度 00分 00秒	135度 45分 54秒	20050131 ～ 20050426	450㎡	マンション 建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
平安京左京 五条四坊一 町跡、烏丸 綾小路遺跡	都城跡、集落跡	弥生時代 ～江戸時代	土壙、溝、柱 穴、井戸跡	弥生土器、土 師器、須恵器、 緑釉陶器、灰 釉陶器、輸入 陶磁器、瓦器、 焼締陶器、軒 瓦				

圖 版



A区第1～3面遺構実測図 (1/200)





A区北壁、東壁断面実測図 (1/150)

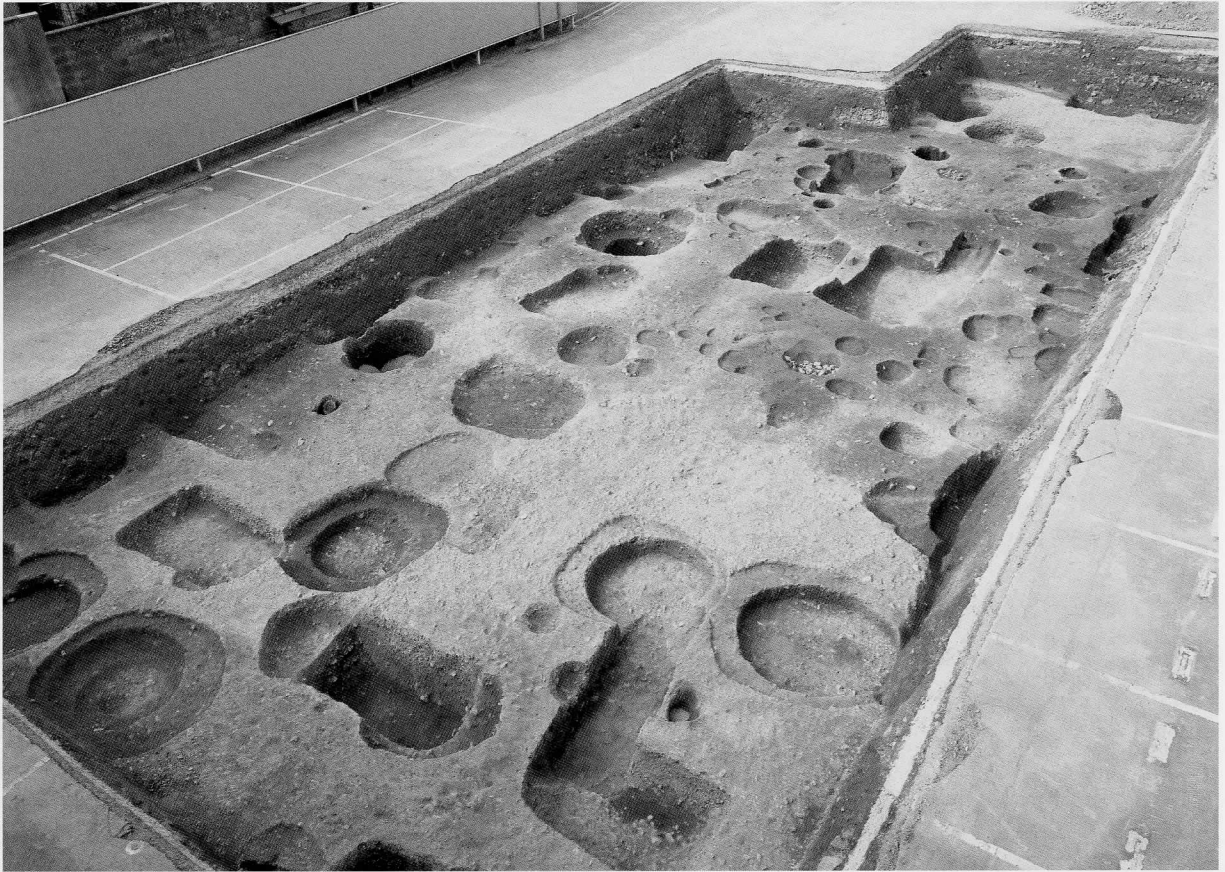
- 1 アスファルト
- 2 砕石
- 3 10YR2/3黒褐色砂泥
- 4 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥
- 5 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (下部シルト、瓦、漆喰多く含む)
- 6 10YR2/2黒褐色砂泥 (炭混)
- 7 25Y4/4オリーブ褐色砂泥
- 8 25Y4/3オリーブ褐色砂泥
- 9 25Y4/2暗灰黄色砂泥
- 10 10YR2/3黒褐色砂泥 (径10cm程度の礫多く含む)
- 11 10YR2/3暗オリーブ褐色砂泥 (径10~30cm程度の礫多く含む)
- 12 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (炭混)
- 13 25Y2/1黒色砂泥 (炭混)
- 14 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (炭混)

- 1 アスファルト
- 2-2 砕石
- 3 10YR3/2黒褐色砂泥 (土師、径2~3cm、10cm大の礫、ガラ含む)
- 4 25Y3/3暗褐色砂泥 (瓦、炭混)
- 5 10YR3/3暗褐色砂泥 (土師、小礫、炭混)
- 6 10YR4/3におい黄褐色砂泥 (土師、径3~15cmの礫、炭混)
- 7 10YR4/2におい黄褐色砂泥 (土師、径3~15cmの礫)
- 8 10YR5/4におい黄褐色砂泥 (7.5YR5/6褐色焼土混)
- 9 10YR3/3暗褐色砂泥 (土師、瓦、径3~5cmの礫、炭混)
- 10 10YR3/2暗褐色砂泥 (土師、瓦、径3~5cmの礫)
- 11 10YR2/2暗褐色砂泥 (土師、瓦、径3~5cmの礫)
- 12 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (瓦、土師小片、径10cm大の礫混)
- 13 10YR4/3におい黄褐色砂泥 (土器片、炭、径3~8cm大の礫混)
- 14 10YR4/2暗灰黄色砂泥 (土器片、炭、径3~5cmの礫混)
- 15 10YR4/3におい黄褐色砂泥 (瓦、径3~10cmの礫多量に含む)
- 16 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (径5~50cmの礫、土器片、瓦混)
- 17 10YR3/2黒褐色砂泥 (径5cm大の礫、瓦多量に混)
- 18 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (炭混)
- 19 10YR4/2暗灰黄色砂泥 (炭、土器片、瓦、径5cm大の礫混)
- 20 10YR4/2暗灰黄色砂泥 (炭、土器片、径3~5cmの礫多量に混)
- 21 10YR4/2暗灰黄色砂泥 (土師片、炭混)
- 22 25Y5/3黄褐色砂泥 (炭、土師片、径5cm大の礫混)
- 23 25Y5/4黄褐色砂泥 (土師片、径2~3cmの礫混)

- 29 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (粒子細かい)
- 30 25Y3/2黒褐色砂泥 (炭、瓦、土師片含む)
- 31 25Y3/1黒褐色砂泥 (炭大の礫多く含む)
- 32 25Y3/2黒褐色砂泥
- 33 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥
- 34 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (炭、土師片含む)
- 35 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (炭、土師片含む)
- 36 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (炭、土師片含む)
- 37 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (炭、土師片含む)
- 38 25Y4/2暗灰黄色砂泥 (炭、土師片含む)
- 39 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (炭、土師片含む)
- 40 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (炭、土師片含む)
- 41 10YR2/3黒褐色砂泥~砂 (礫多く含む、炭、土師片、焼瓦含む)
- 42 25Y3/2暗オリーブ褐色砂泥 (炭混)
- 43 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (炭混)
- 44 10YR2/2暗灰黄色砂泥 (炭混、径10cm程度の礫多く含む)
- 45 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (炭混)
- 46 10YR2/3黒褐色砂泥 (炭混)
- 47 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (炭混)
- 48 25Y3/2暗オリーブ褐色砂泥~砂 (下部礫多い)
- 49 10YR2/1黒色砂泥~砂 (炭堆積、土師片、焼瓦含む)
- 50 25Y4/3オリーブ褐色砂泥~砂

- 24 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (炭、土器片混)
- 25 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (径10cm大の礫少量混)
- 26 25Y4/3オリーブ褐色砂泥 (炭、土師片、径3~10cmの礫混)
- 27 10YR4/2暗灰黄色砂泥 (土器片、径3~10cmの礫多量に混)
- 28 10YR4/2暗灰黄色砂泥 (土器片、炭少量混)
- 29 10YR3/2暗灰黄色砂泥 (径3~5cmの礫、土師片混)
- 30 10YR4/2暗灰黄色砂泥 (径20~50cmの礫、ガラ、瓦、漆喰等多量に混)
- 31 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (土師片混)
- 32 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (土師片混)
- 33 25Y4/2暗灰黄色砂泥 (瓦、径3~10cmの礫、土師片等多量に混、漆喰含む)
- 34 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (土師片混)
- 35 25Y4/3オリーブ褐色砂泥 (径3~5cmの礫、土師片、炭混)
- 36 25Y4/3オリーブ褐色砂泥 (径5~10cmの礫、土器多量に混)
- 37 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (土師片混)
- 38 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (土師片、小礫混)
- 39 10YR3/3暗褐色砂泥 (径5~20cmの礫多量、瓦混)
- 40 10YR3/2暗褐色砂泥 (径5~10cmの礫、炭、土師片混)
- 41 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (径10~20cmの礫、瓦、土師片混)
- 42 25Y4/3オリーブ褐色砂泥 (径5~20cmの礫、漆喰、土器片、瓦、焼土、貝殻混)
- 43 25Y3/2暗褐色砂泥 (炭、焼土、土師片混)
- 44 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (径3~5cmの礫、炭混)
- 45 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (径3~5cmの礫、炭、土師片少量混)
- 46 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (径1~5cmの礫少量混)
- 47 25Y3/2暗オリーブ褐色砂泥
- 48 25Y3/2暗褐色砂泥 (径5cm大の礫、炭、土師片少量混)

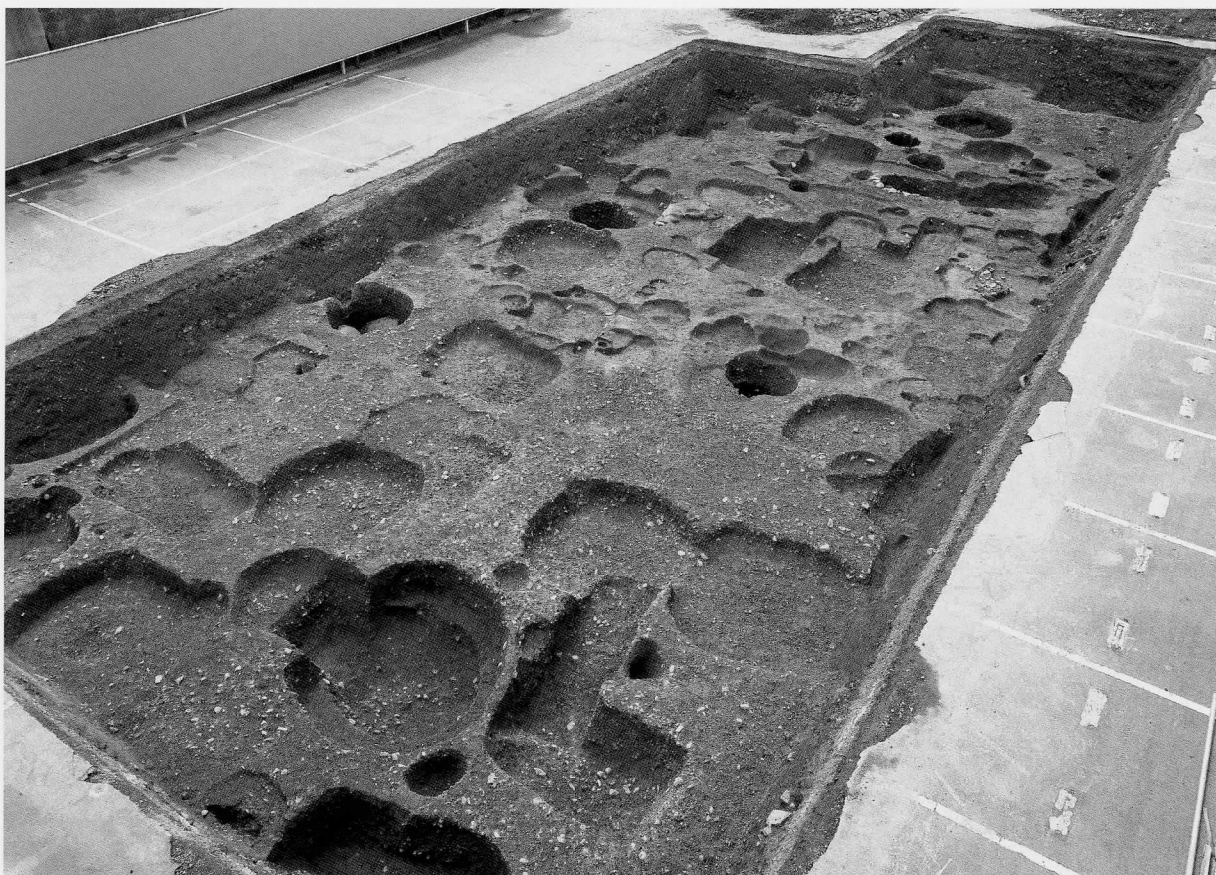
- 47 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥
- 48 25Y3/2暗褐色砂泥 (径3cm大の礫、炭、土師片少量混)
- 49 10YR4/2暗褐色砂泥
- 50 10YR4/2暗褐色砂泥 (径2~8cm大の礫多量に混)
- 51 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (径1~5cm大の礫多量に混)
- 52 10YR5/4におい黄褐色砂泥 (土師片少量混)
- 53 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (土師片、炭少量混)
- 54 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥
- 55 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (径3~4cmの礫、炭、土師片少量混)
- 56 10YR4/2暗灰黄色砂泥 (瓦、径10~20cmの礫、漆喰、ガラ多量に混)
- 57 10YR4/3におい黄褐色砂泥 (径5~40cmの礫、土師片混)
- 58 10YR4/3におい黄褐色砂泥 (径3~5cmの礫、土師片混)
- 59 25Y4/3オリーブ褐色砂泥 (径2~10cmの礫、土師片、瓦、炭混)
- 60 10YR3/2暗褐色砂泥 (瓦、径5~40cmの礫多量に混)
- 61 25Y4/3オリーブ褐色砂泥 (径2~5cmの礫、炭、土師片混)
- 62 10YR4/2暗灰黄色砂泥
- 63 25Y4/2暗灰黄色砂泥
- 64 10YR2/3暗褐色砂泥 (径2~4cmの礫多量に混)
- 65 10YR4/4暗褐色砂泥 (径3~5cmの礫多量に混)
- 66 10YR4/4暗褐色砂泥 (細砂多量に混)
- 67 25Y4/2暗灰黄色粗砂 (径2cm程度の礫、鉄分多量に混)
- 68 25Y4/2暗灰黄色粗砂~細砂 (鉄分混)
- 69 25Y5/2暗灰黄色粗砂~細砂 (径5cm以下の礫多量に混)
- 70 5YR3/4暗赤褐色砂泥 (暗灰黄色粗砂多量に混、径3~10cmの礫、鉄分混)
- 71 10YR3/3暗褐色砂泥 (径5~10cmの礫混、マンガン付着)



1 A区第1面全景（北東から）



2 A区第1面全景東部（北東から）



1 A区第2面全景（北東から）



2 A区第3面全景（北東から）





1 調査地遠景（北東から）



2 A区北壁（南東から）



3 A区第2面西部（北東から）



4 A区第2面東部（北東から）



5 A区第3面西部（北東から）



6 A区第3面東部（北東から）



7 A区北壁A地点出土土器片（南から）



8 A区北壁B地点出土土器片（南から）



1 A区土壙163 (南から)



2 A区柱穴345 (東から)



3 A区井戸52 (北から)



4 A区井戸274 (北西から)



5 A区井戸57・58 (南東から)



6 A区井戸57 (南東から)



7 A区井戸57 (南東から)



8 A区井戸57部分 (南から)



1 A区井戸58 (南東から)



2 A区井戸58完掘状況 (西から)



3 A区土壙80 (南から)



4 A区北壁水琴窟 (南から)



5 B区全景 (南東から)



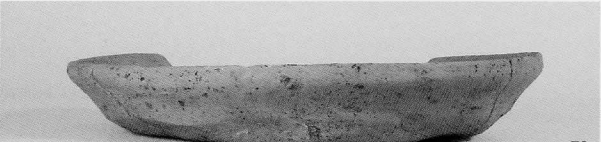
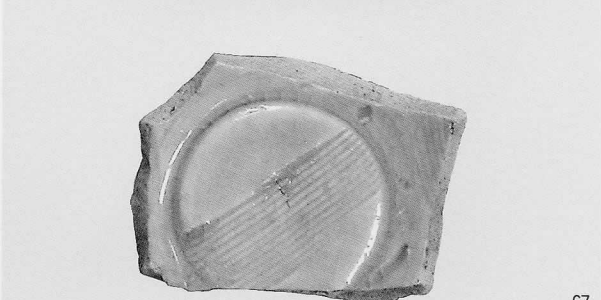
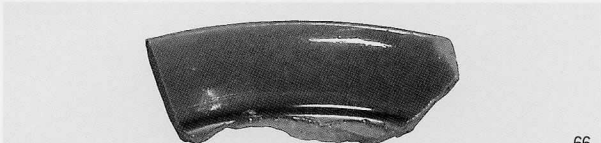
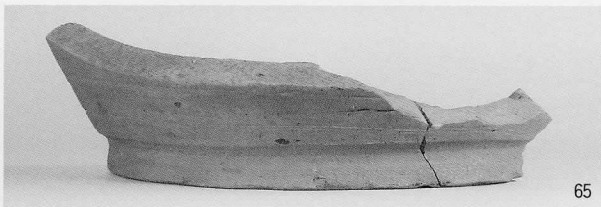
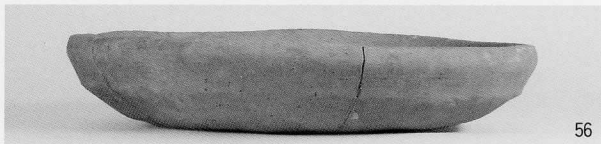
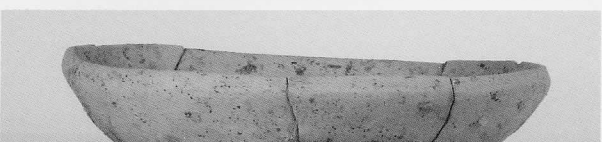
6 B区北壁 (南から)



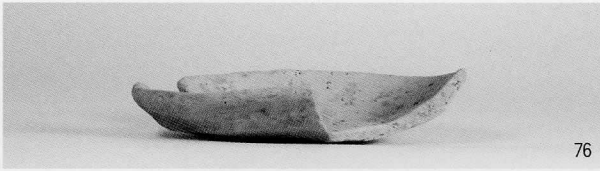
7 B区溝508 (南東から)

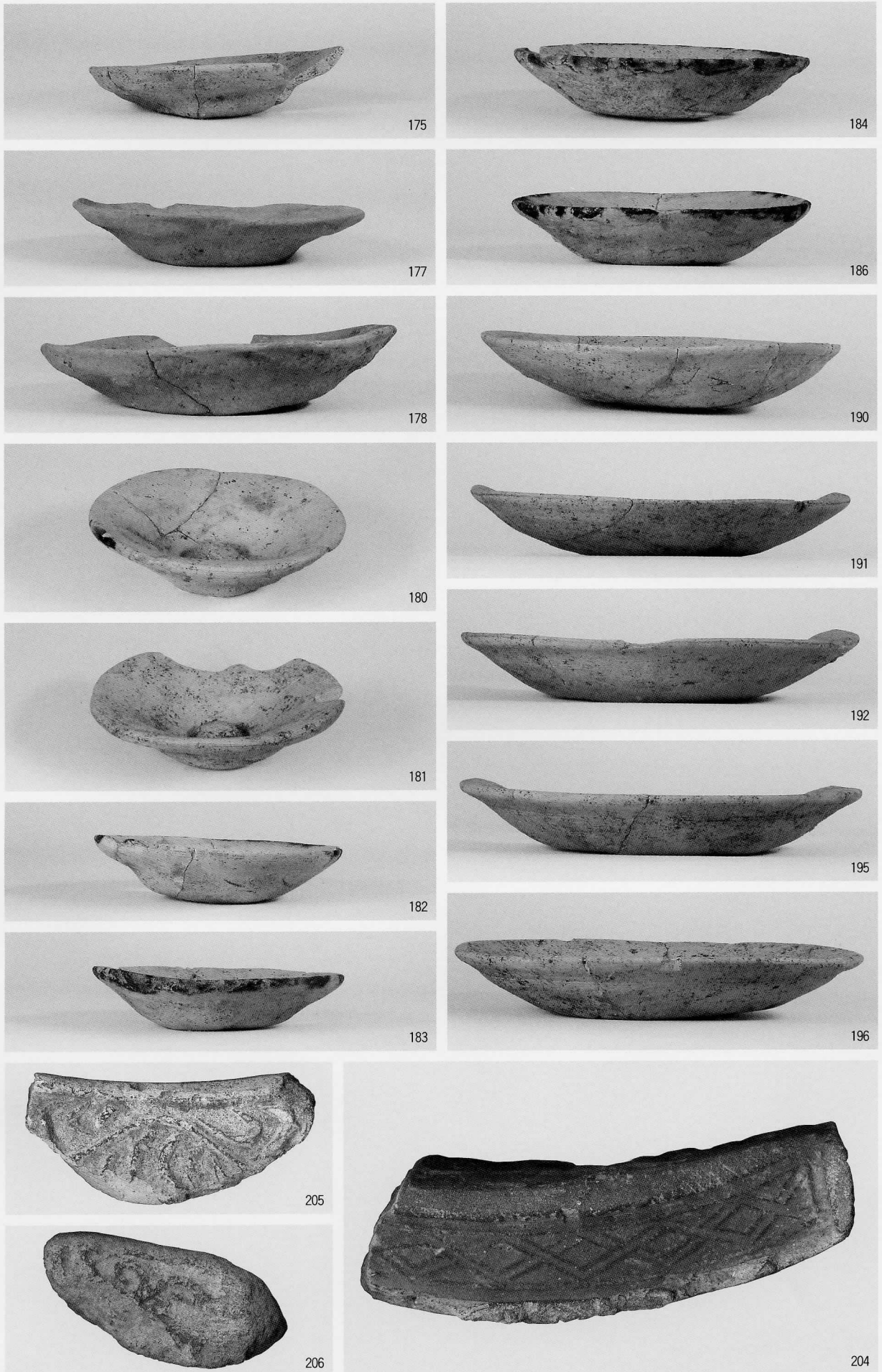


8 B区落ち込み507 (南から)



溝173 (9) ・土壙163 (14、15、17、18、20、23~25、27、28、31) ・土壙261 (52、56、65~67) ・柱穴345 (70~72) 出土遺物





土壙128 (175、177、178、180~184、186、190~192、195、196) · 柱穴407下層 (204) · 土壙395 (205) · 土壙165第3層 (206) 出土遺物

# 平安京左京五条四坊一町

— 四条高倉マンション新築に伴う調査 —

発行	2006年3月31日
編集	古代文化調査会
住	〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1-4-125-1404 TEL (078)857-6368
印	真陽社 〒600-8475 京都市下京区油小路仏光寺上ル TEL (075)351-6034

